洲崎家圖彙大成

二

P
~~279~~
2

逍遙文庫
文庫6
27
2

頭書増補訓蒙圖彙 巻之一

天文

此部ハ日月星辰雨露霜雪乃そぐひあり
日月星辰い天の文章なるべし易曰仰見於天文

両儀

天地開闢のとき初めくして清らかなるものは上りて天となりおもくにごりたるものは下りて地となる天を陽といひ地を陰と法

陽陰を儀といふなり

○七政とは日月と五星と合せていへる七曜ともいふなり

日月五星天の政をなす

木星と歳星といひ火星を熒惑といひ土星を鎮星と云金星を太白といひ水星を辰星

文庫6
27
2

とりハ木火土金水の五行ノ星めぐりて陰陽とかゝ歳とりを此五星と五緯ともいふ

○太極ハ天地いまだわかるを陰陽とわかるを渾沌と

事鷄子のおゝ〜溟涬て牙とふ〜めること〜ハ鴻毛の未判とハ其清陽なるものを薄靡て天となり重濁りのを淹滯て地となるあゝふおゝく天地開闢して其間ふ方物生を開闢以前ハ太極といひ天地陰陽ハ〜ろ〜ハ儀とハ

○國常立尊ハ天地既ハ〜んて其中に物わ〜ろ〜ち葦牙

のお〜〜則化して神となる

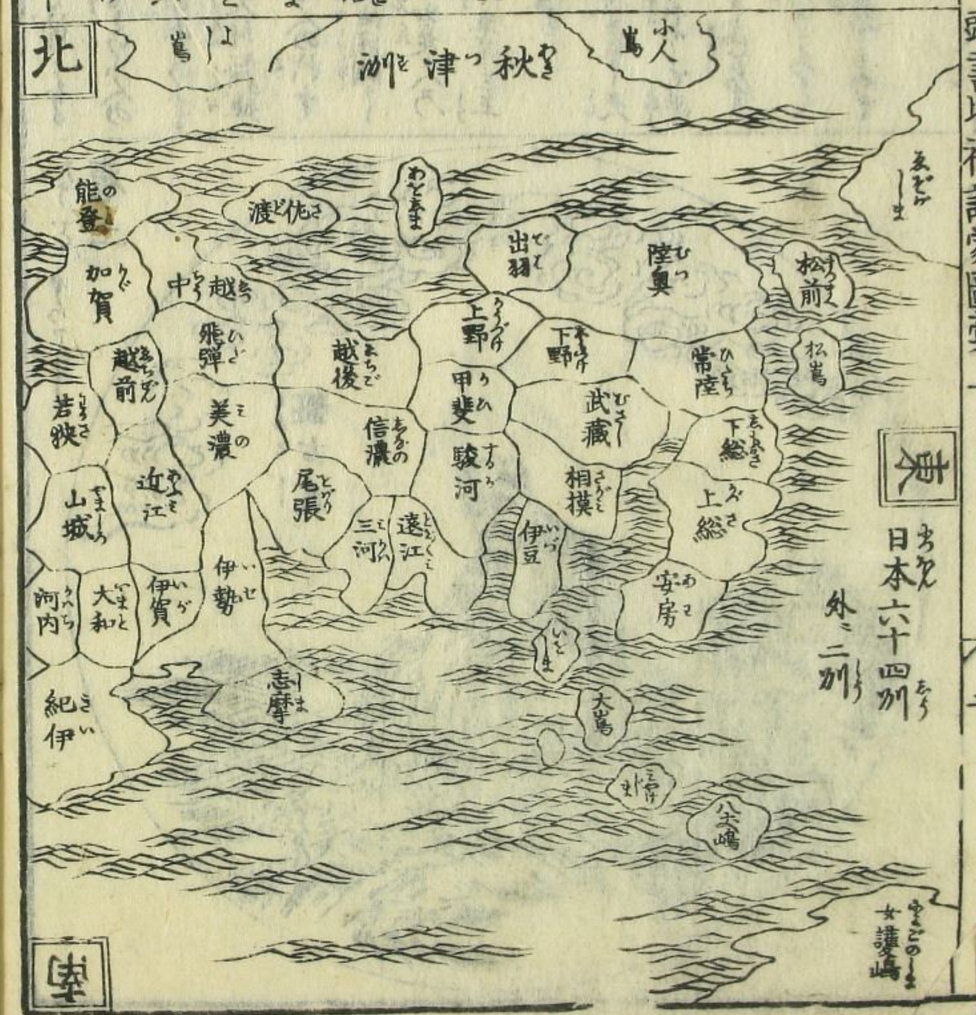
こと〜ハ國常立尊とハ人の始ゆり日本を芦原國とハ此義なるを是ゆり天神七代地神五代ありつゝきて人の代ゆ

ゆゆり唐にてハ天地開闢して盤古氏〜〜ゆ〜く出是人ノ始ゆりこれゆり三皇五帝三王とつゞきて人の代となる

○倭ハ日本を倭と号る事天地開闢の後ハ地ハ背ゆりて平る〜人の代とゆりて〜ゆ〜ゆ〜き平地とゆ〜て住ゆ〜く日本ハ山縁とハ義とゆて倭國とハゆ〜

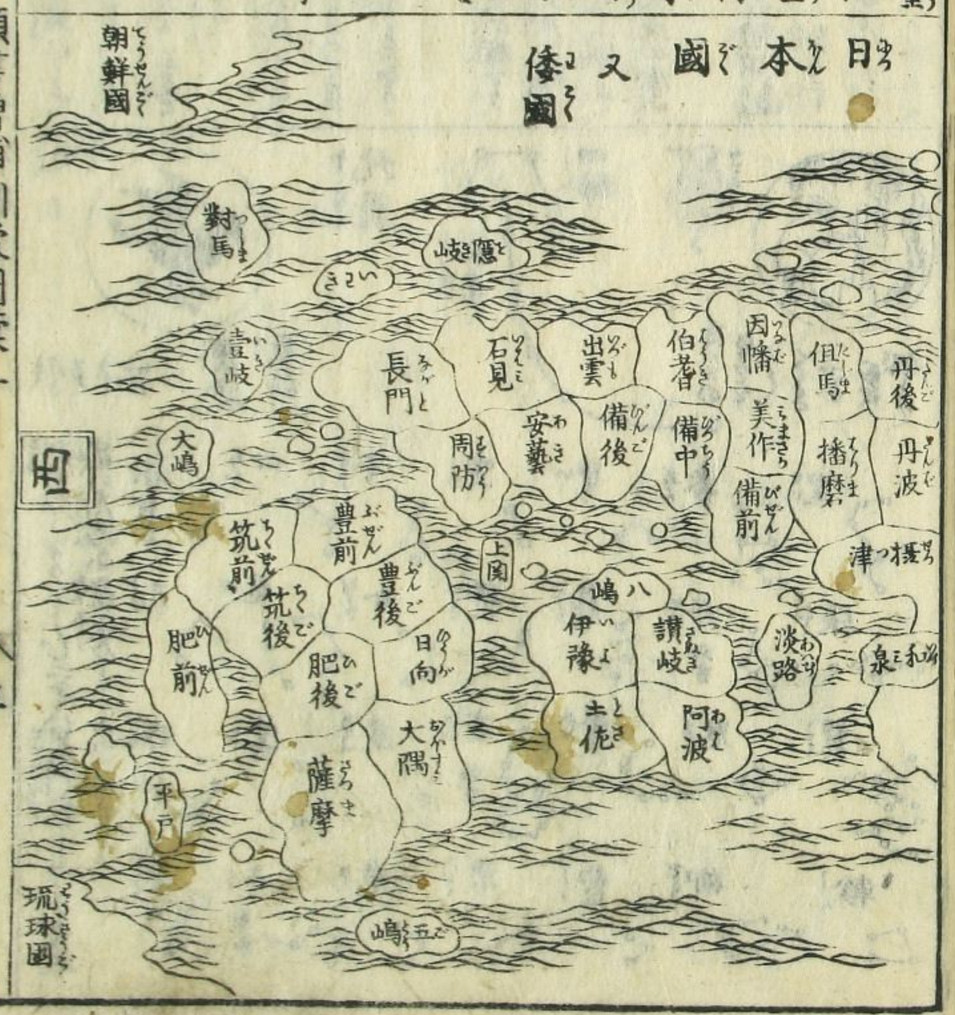
○秋津洲とは人皇のはじめ神武皇帝と奉る即位三十一年四月帝諸國を幸はしまして日本乃地秋蜻蛉ふ似るとて秋津洲と名づけたまふ

○そもそも日本國は唐中華の地より東にあるゆへ日東とも扶桑國とも又須彌山の南にあるゆへ南贍部



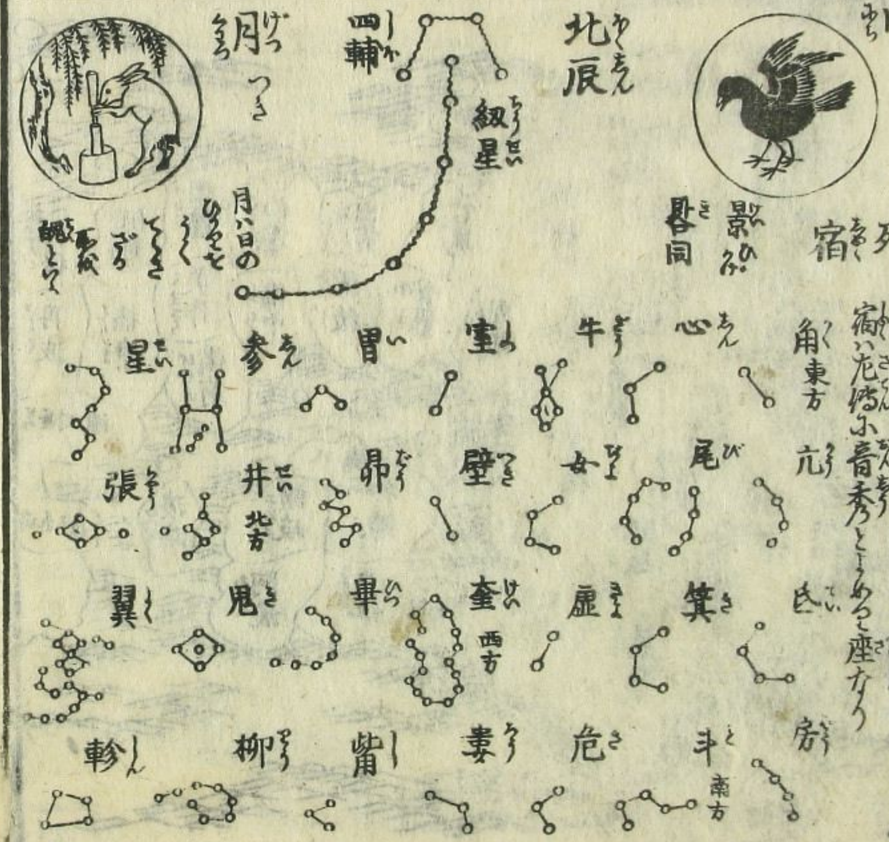
日本六十四州
外二州

日本國又倭國



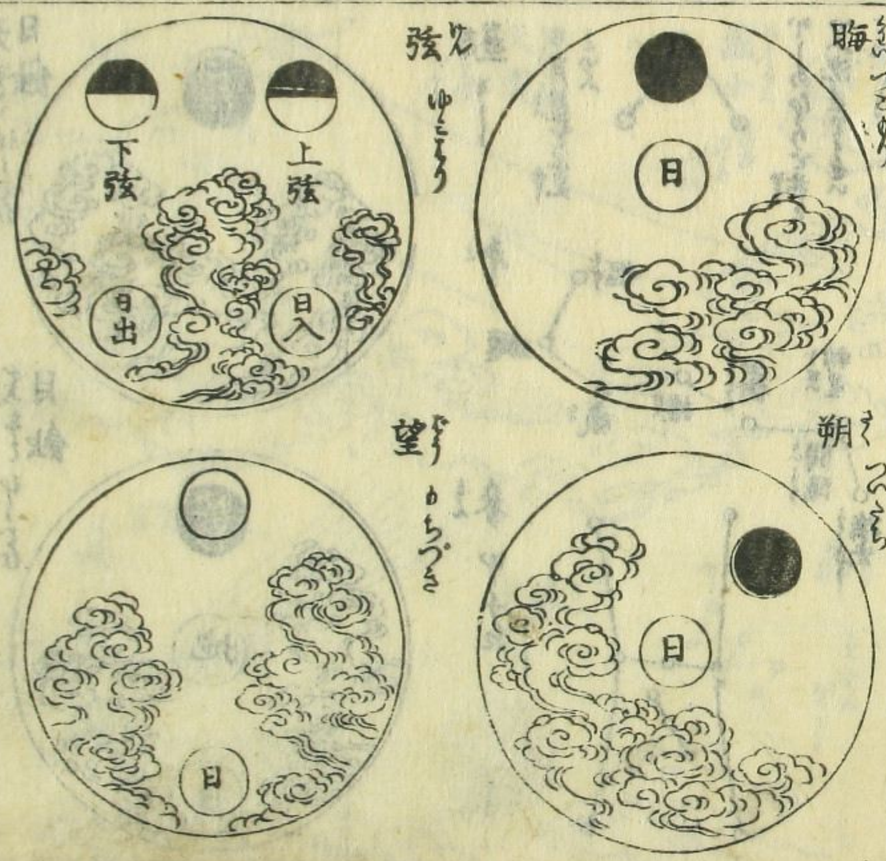
別ともいふ用明天皇のころ紀五畿七道弘さぐるゆふ文武天皇の御代ふ六十六ケ國にもうちて諸國を守護とゝ人東武ふ將軍ありて諸國を守護せしめ西京中國天子の都とゝ人すひぬ田地の數凡九十四万七千八百一町米高貳千貳百八万五千四百八十貳石カとゝ

○日は陽の精なり空虚にして
ひさごろもにして鳥となりて日
の形となる湯鳥かまびすし三足と
なる湯数のごとくなり
○月は陰の精なり空虚にして
ひさごろもにして兎となりて月
の形となる兎は法の獣なるゆえなり
白兎法の色なり
○北辰は北極なり天の樞なり
一周天のめぐる事此北辰を樞な
るゆえなり北に依りて
諸の星ことごとくこの北辰の座ふ
たつ星あり西にあり
○列宿北星天の東西南北に位
して四方各七星づつ合て二十
八宿なり毎日巡りて三十日にして



列宿とは二十八星列座しつらなる也
宿は危偉小音秀とつらなる座なり

○晦毎月大なるは三十日小なる
は二十九日と晦とは人月地下に
かくれて光なしつらて晦の字
とは晦なり昏晦暗晦
のあくみなり
○朔は蘇なるはじめとは月
は十五日より晦日までにかけて
人朔日よりはじめてそなへて
明なりとは義ふて朔とは人
○弦は上十五日と上弦とは下十
五日は下弦とは人上弦は西の方
下弦は東の方なり上弦は七日
八日九日下弦は廿二日廿三日廿四
日にあたる月の光なきなり
○望は十五日の事なり十五日は
日月東西ふわひ望むゆえに望
とは人ことなり月ともいへり日



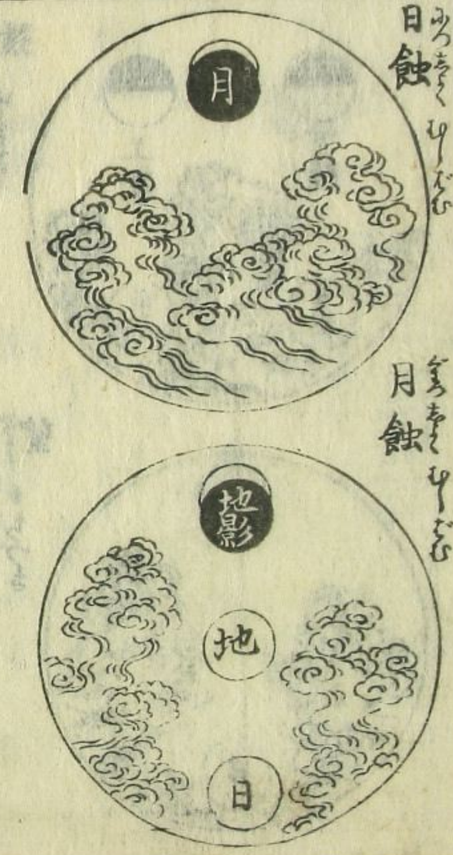
月ハ對して月の光地の方にあたて天をゝ故ふ滿月なる

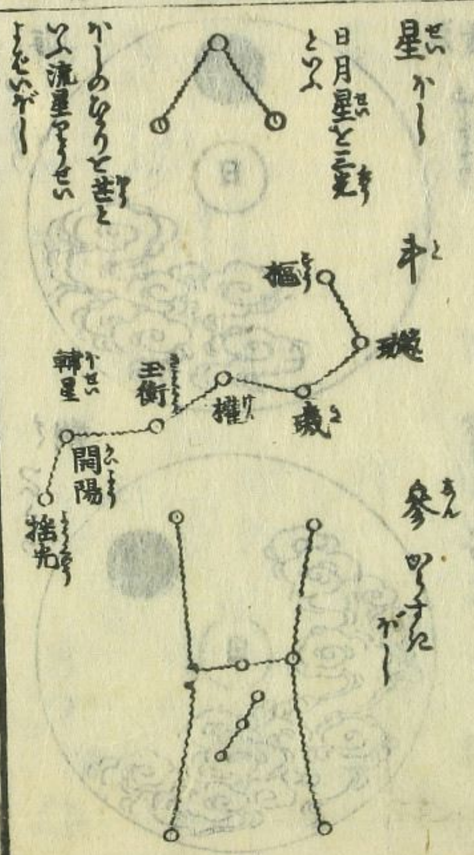
○日蝕ハ日月天ふあて日ハ上なる月ハ下なり朔日日月の會なり日月上下にあて道と同して會をゝ地より見るとハ日ハ月のうへにかゝる是を日蝕といふなり

○月蝕ハ月ハ光なし日の光地の後にあて明るゝのなり日月道と同しておなじく地ハ月あるゆへ日の光地の後ゝ遮ち月蝕を

○星ハ湯精なり湯精日ゝなり日ゝ星ゝなり故ふ日生とゝ星とゝ

○北斗ハ七星なり一二三四と魁ゝ五六七と杓とゝ搖光ハ





かゝのうへと世ゝ流星なり

破軍星なり輔星ハ

○參星ハ西方七宿の一なり俗に是を白虎と星の列座なり

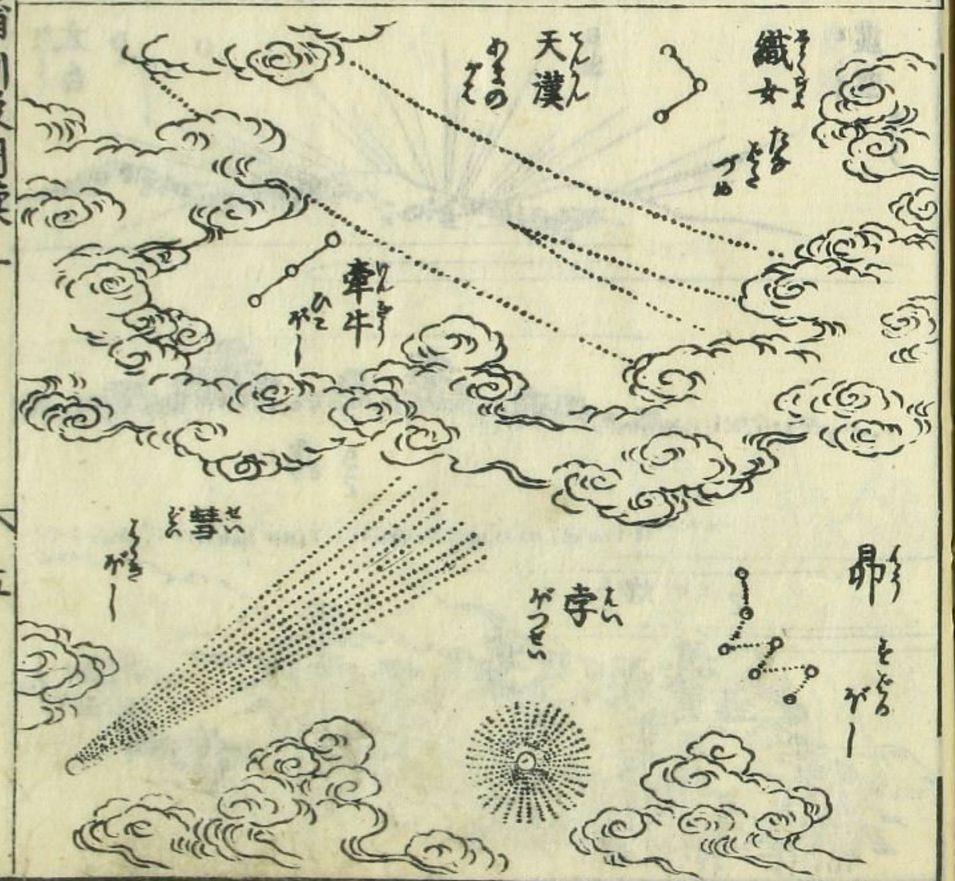
○昴星ハ西方の一宿なり旄頭星ともいふ俗ふをゝる星といふ是なり星の列座同せくあくをゝるなり

○牽牛ハ星の名なるゆゑなり

○七月七日織女牽牛に嫁を七桂陽の武丁といふ仙人のひとり七夕といふの事始なり

○織女ハ星の名なるゆゑなり七月七夕瓜菓を庭上にをゝ五色の糸に掛て祭ふことなり

ふ三奉の月ふゆゝなり是なり



巧奠とも七夕祭るなり

○天漢とは天河とも銀河とも云

烏鵲橋とのべ橋と此河を渡

牽牛織女の二星わかれ合ふなり

○ほし星は妖星なり此星出るとき

は書とのぎなして新しく改まり災なり

なりの瑞あり俗ふ是を御光星と云

○彗星は妖星なり色青は王侯死

赤は強國なる白は兵乱なる天下

に災のなるべきなり星なり

○太白星は金星なりあかつきの

つゆ俗ふあかつきの明星と云日にさ

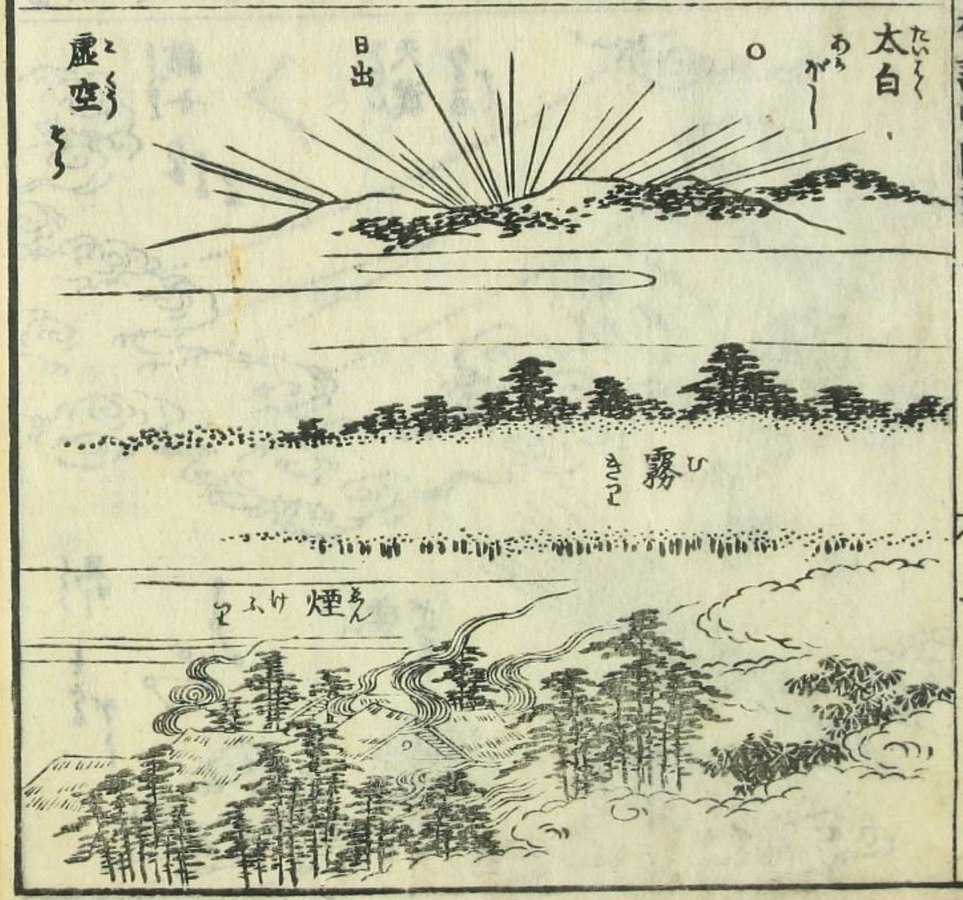
きぶちて出るなり啓明とも云

○虚空はそらとも空とも

云太虚太空とも云天なり天は

圓にして空なりて物なくうちは

なりうつく虚空なり



○霧は陰陽のみだれて生ず

地氣のかつて天氣應ぜざるなり

霧とは天氣ぐろして地氣應せ

ざるなり雾とは風吹て土ぐろく

なるを霾と云

○煙は火の物なる氣なり烟同じ

又水なるを煙とも

○長庚は金星なり日にさきて

て是を長庚星と云俗ふ是を

ようひの明星と云なり

○風は大塊の噫氣なり陽の緩

にして散ずて陰の用となる故に

風吹くは土必ずくつ旋風飄

風いつとかぜ

○露は夜氣露なる陰の液な

白虎通ふ露は霜の始なりせ

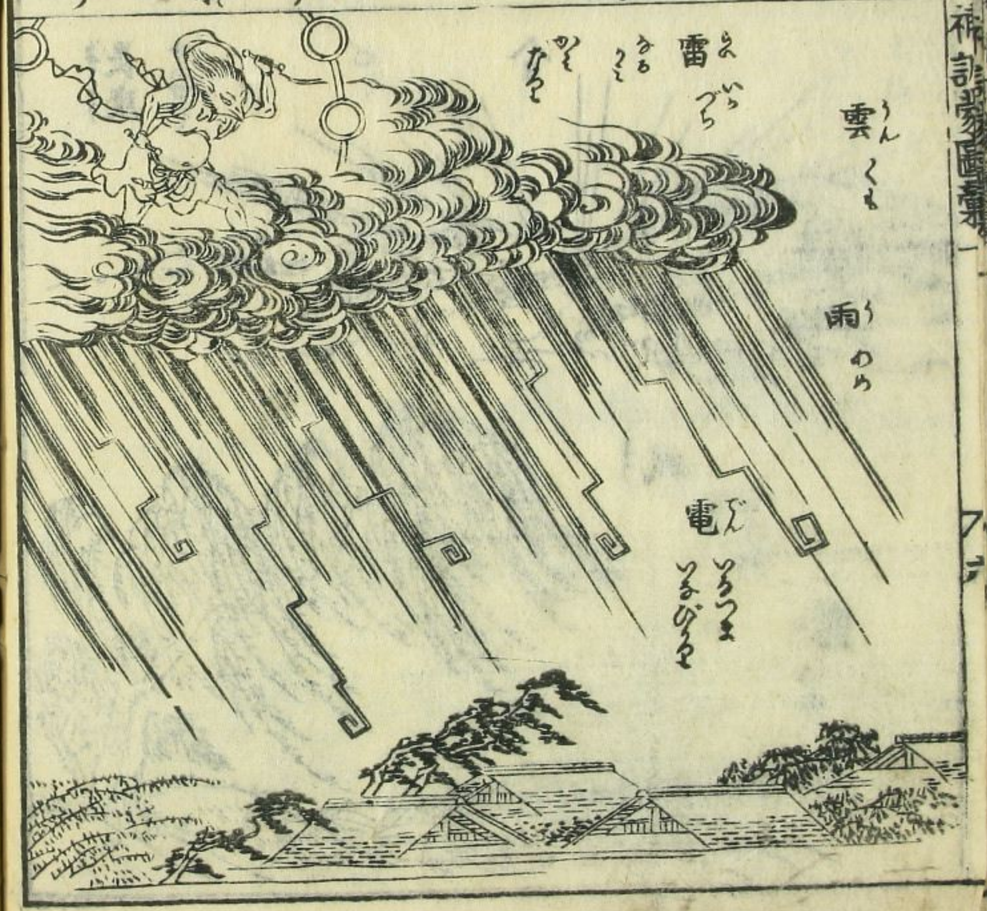
なり露とは陰なるぞ

○雲ハ山川の氣より地氣のぼりて雲となり天氣となりて雨となる雲ハ陰の躰なり雨ハ陽の用なり水の雨濕の氣なり

○雨ハ水氣にて雲ハ雨となるゆえに暴雨といひ夕べに霧雨といひ夕べに驟雨といひ時雨と澍といふ

○雷ハ陰陽わひ激する声なり王充論衡に書ふ雷の形ハ人のゴとく連鼓を左よ持右のゴふ鞨とりくうちて声とかゝといふ

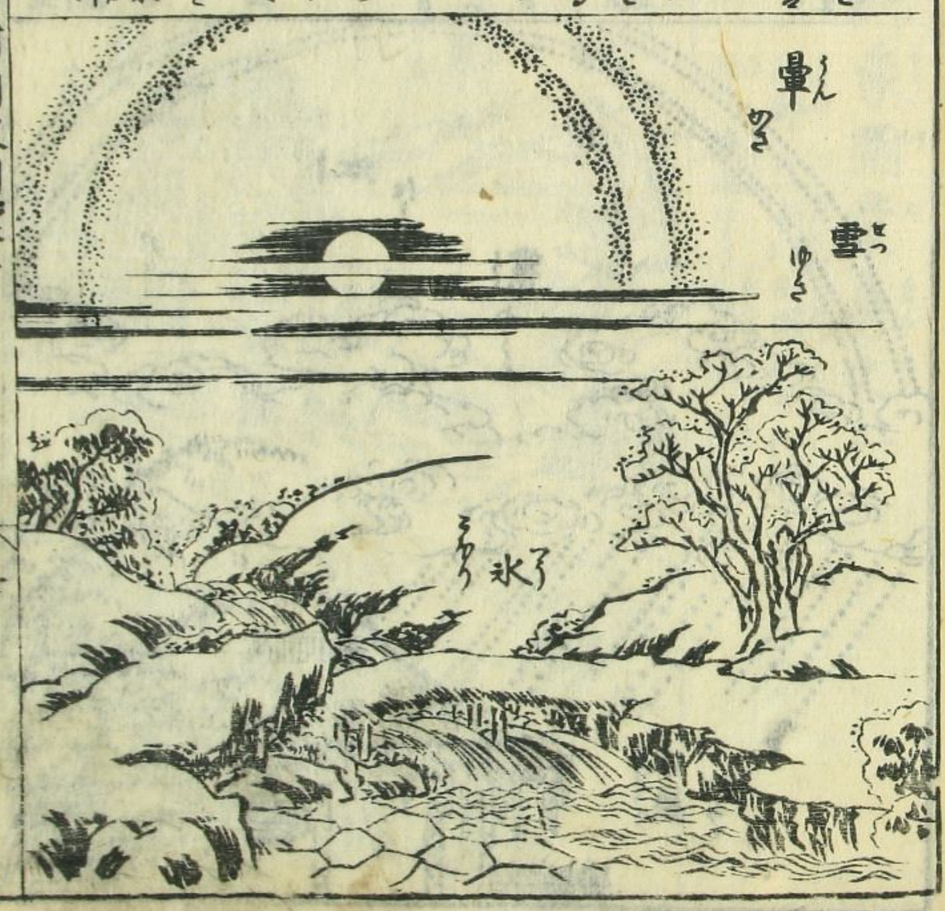
○電ハ二月ふ有この月陽氣漸さんかして陰氣とうとの激をるひりと電と俗にいひ雷神と電母といふ



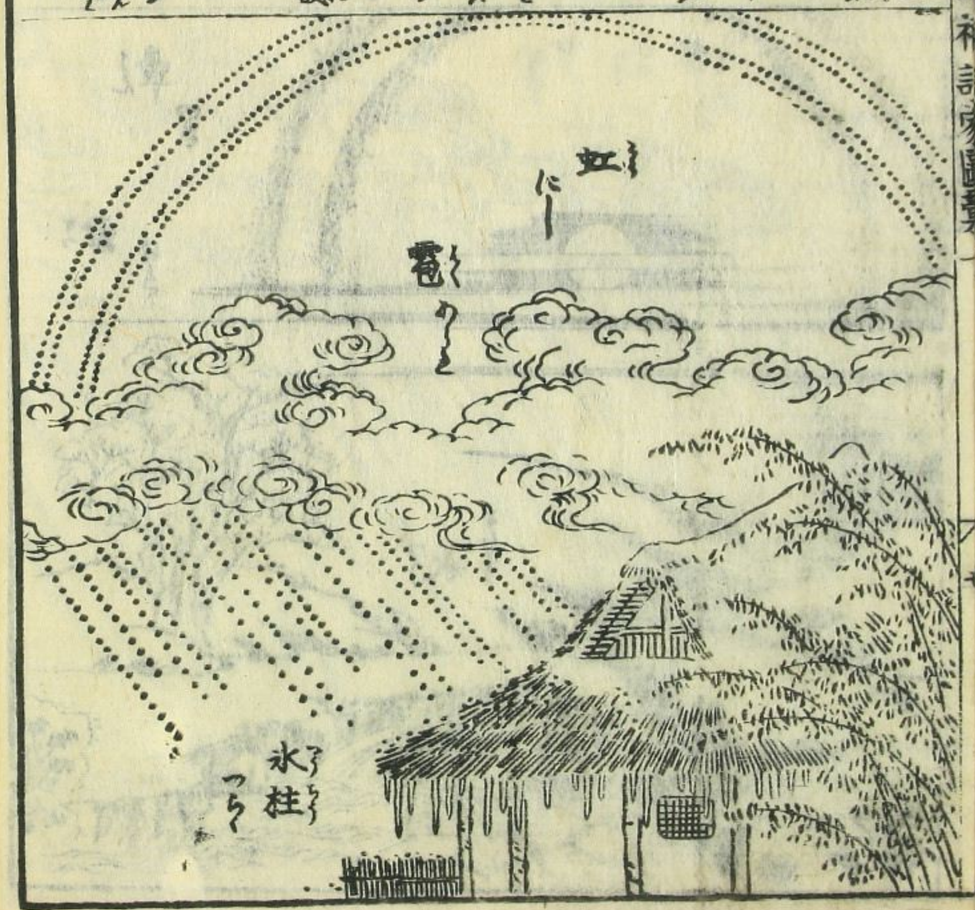
○暈ハ日月のまわりの氣なり○日暈ハ雨ふきいひ○月暈ハ雨ふる三日のうちふ雨ふるといふ

○雪ハ雨ふりて雪となる天地乃積陰あつまりて雪ハ雨となり花とかゝ雪とかゝ圓なると電といふ又銀花とも六出花とも銀屑とも

○氷ハ陰氣のあつまりて凝りとけるところ氷となる氷と書いわやまり氷と書べし氷つもりて凌といふ氷さんなる氷凍といふ氷おりくと斷といふ氷とるを泮といふ氷室ハひろかなり



○虹い日雨と交て質となるを也
日のひかり雨にうるふうるく虹
あらる朝ハ西にあり暮にハ
東にあり色鮮なるハ雄と
闇と雌とを俗ハ蛇のいきをハ
蝃蝀霓同ともハにとゝ
○雹い雪こゝりて圓なるハ
雹といハ寒氣つよくきゝい雪と
なりて輕し寒氣すくなきい
雪かしてたのやをハ雹とゝる
瓊瑤玉粒碎玉銀米明珠
同ー雪雨にまじりうるハ霰
とゝ
○雪水寒にむとかゝをて軒
のたゝるとこゝりも氷柱とゝる
氷筯氷條とも書ハ氷筯
ともゝとなる

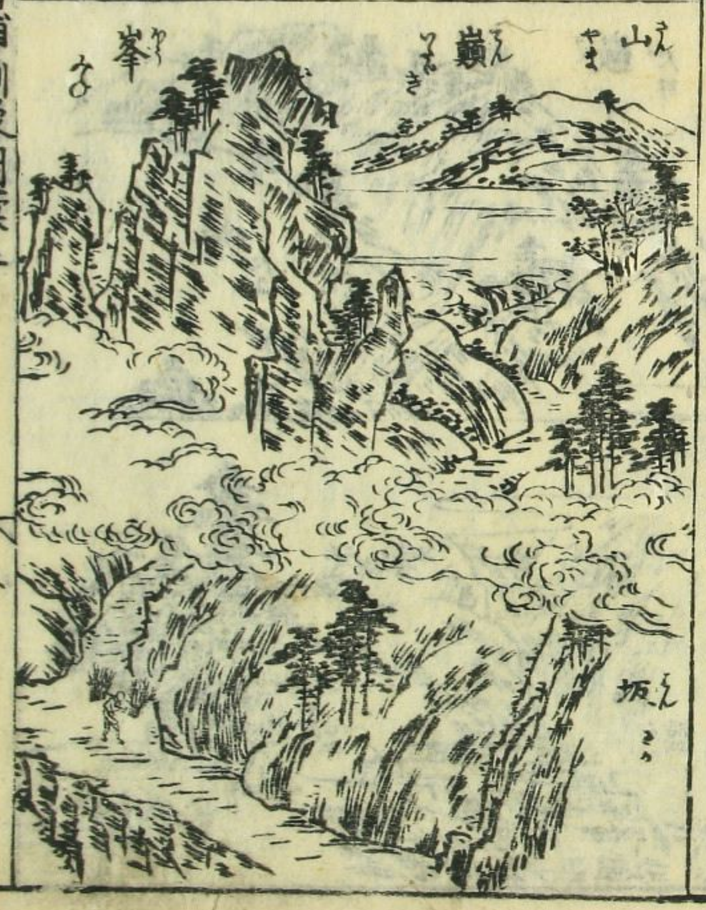


頭書増補訓蒙圖彙 巻之二

地理

此部ハい山ハ田園林丘村市のまぐひめを地乃條理なり易云俯察於地理

○山い高大みて石あるハ
ハ廣雅云山い産なり
万物と産をるゝ説文山
ハ宣なる
○峯い山の端なり山大み
て高き峯をいふ
たゝなと峯とゝ
かゝ唐にくい香爐峯日
本みてい富士峰なゝ嶺同
○巔い高山のいゝなり絶
頂なる詩經ハ采苓采苓
首陽之巔とゝ山巔ゝも



高巓ともいふ

○坂い坡坂多り山中の高くけわしき所なりふ坂と嶝と云ふ磴同し

○嶽いけつき高山なり山城如意嶽近江の比良のが嶽なり

○谷い両山の中に流水なり溪谿同し水谿にて〻と谷と云ふ山の間ふ水あり谿澗と云ふなり

○丘い土の高き所なり四方なりにて中央ひくき丘と云ふ

とりあり阜同狐死をるに丘い丘と枕しを

○盤い大石なり盤石ともいふ重言

○巖いはほなり石のおほきなるを石窟と巖とふ石のちいさきを礫と云ふ詩經ふ維石巖々とあり岩同

○崖い山邊なり山の一片ふそばぢのそばなる所を崖と云ふ懸崖ともいふけど補俗ふがけといふなり

○瀑い瀧とも書なり水が白くなりて布と瀑布と云ふなり瀑布ともいふ日本にも布引のたきといふあるなり

○泉い盧山に名高き所なり飛泉

ともいふ
○棧い棚なり閣なるを仮に用ふ
ちく道とあを仮に道とも用
道ともいふけんとの山坂 補乃
ちうて通るところを掘とうけて
道とも〜かんひとるとつく
○洞い深通ぞると洞といふいて
あみわりく道と通ぞるあや
仙洞い仙人のすむ洞なり峒同
山ま岩穴わりて紬ま似ると
岫といふなり
○麓い山足なり林山ふもと
と麓といふ麓い鹿のあるところ
なり四ま鹿し父なり鹿い
このんで林ふもとのべなり
○林い平地にて叢まわるを林
ちいふ野外と林〜ふ樹林松林

林なりいつと本のわつまるとはど
る仮林とひ草のあつまりはど
るどいふ薄いふさひ叢同
○岬い山乃ひとつ〜なり海
かぐへつと出るを仮いて之
越前ま金岬なりて所ま
○村い人のあつまりなる所ま
村落とつふ本い邨につる字
通ま經史に村の字なり邨い
邑ふ仏ひ屯ま仏別ま村ふつく
るい非なるを今通じもちる
邑同〜
○川い穿かり地と穿てなが
その水ともて川とふづくま
河とも書かるを 補 大なるを大
河といひ小なる仮小川といふ
なり 補 江ふなり

○洲い水中の居でこあり人鳥などのあつまり息所也

洲と渚とつかざこあり水渚石あり砂磧ありつをあり水沙上になぎさを瀬とつ満同磯いそあり

○波い風水ところて紋をなを波とつ水波い水紋なを浪瀾とふ同し大波と濤とつ又連いさ波あり又濤と潮頭をいつあり

○渦い水めぐるあり水のめぐる巴のなかなをいつを泡沫泡いあり

○島い海中にありてこんぎを島とつ陽嶋與あつ同ト蓬莱方丈瀛洲と海中の三島とつ

○海い晦なり荒遠にして冥昧ある意あり又海い穢とつて其水黒して晦のごとくつをつ湖いあつこあり潮いしかあり

○岸い水涯の高きあるつ

岸のいはのきしにる浪とつをとつこ岸の波打ぎわにあり

○濱い水際あり涯いかり浦いうらあつ同し水際の平沙を汀とつ又ぎいとしあり海濱ひろくを渟とつ河濱水濱海濱とつふを也

○田い土と耕の名口い田の四方のつ人あり中に十のまい田の阡陌とつみぞのこあり畎

畦町畔

○畔は田の界なり ぐろともいふ
わぜともいひなり 畦畔同
周の國ふい耕りの畔を讓と
いふなり

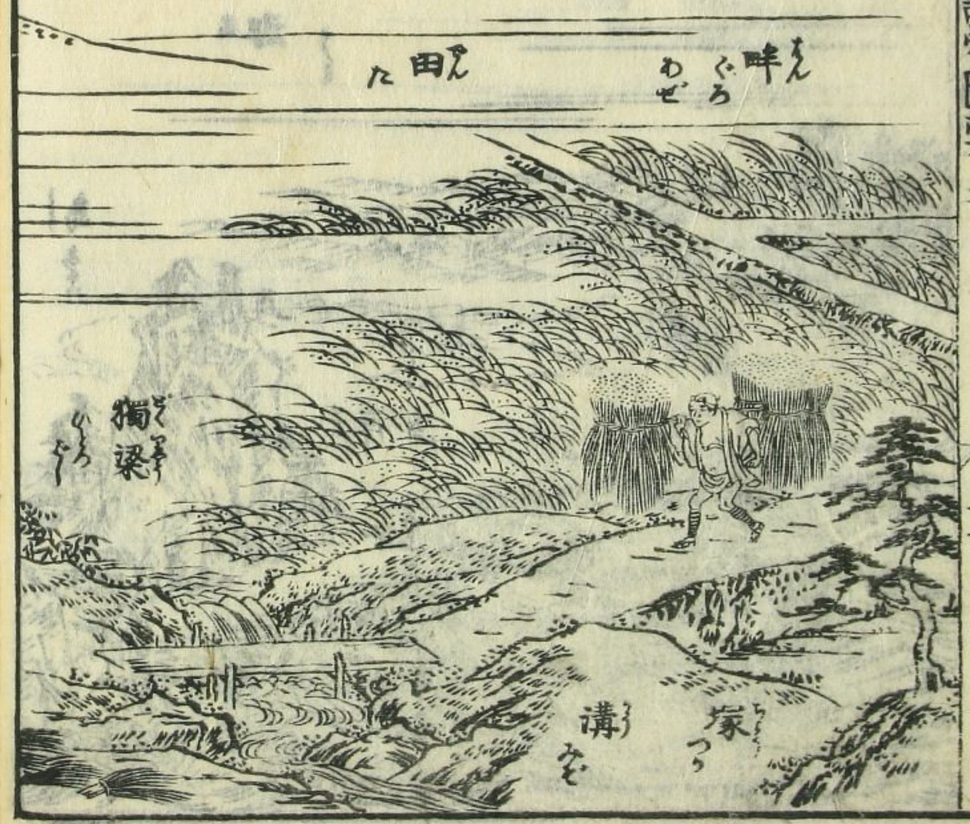
○溝は田間の水なり 溝は構なり
たてゝこゝふゆゝじくゆゝきるなり

渠同

○獨梁は獨木梁ともいふなり
又孤橋ともいふ 丸木ぐゝ一本
橋などいふ

○塚は平なる墓をいひ土を
封ずる塚といふ墓をばつく
高きを墳といふ墳ふつうなり
塚のうへなるゝ墓なるも
幸なり

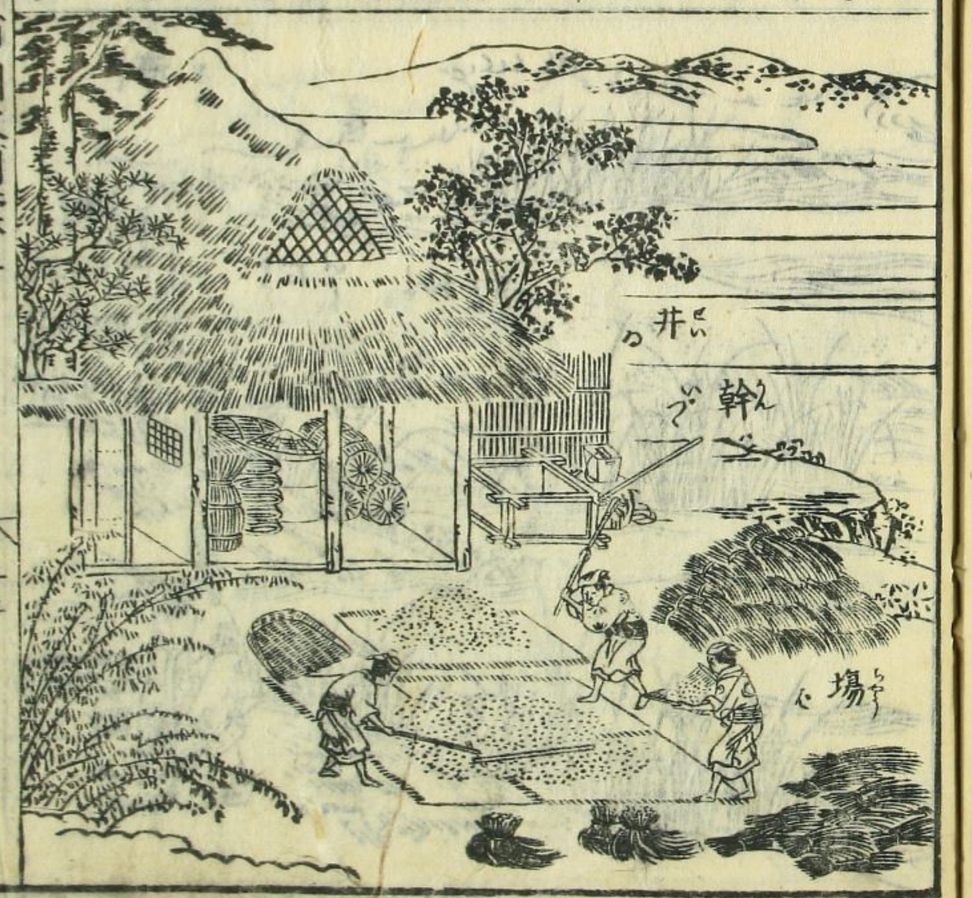
○場は五穀をかゝ ひる圃なり



土を築ずず壇といふ地を除ずず
場といふ神とまつるなり
なり農人の米穀をこゝにおく
と場といふ又りじやぐといふ
市場 賣場 やどといふ場とも
いふくなり

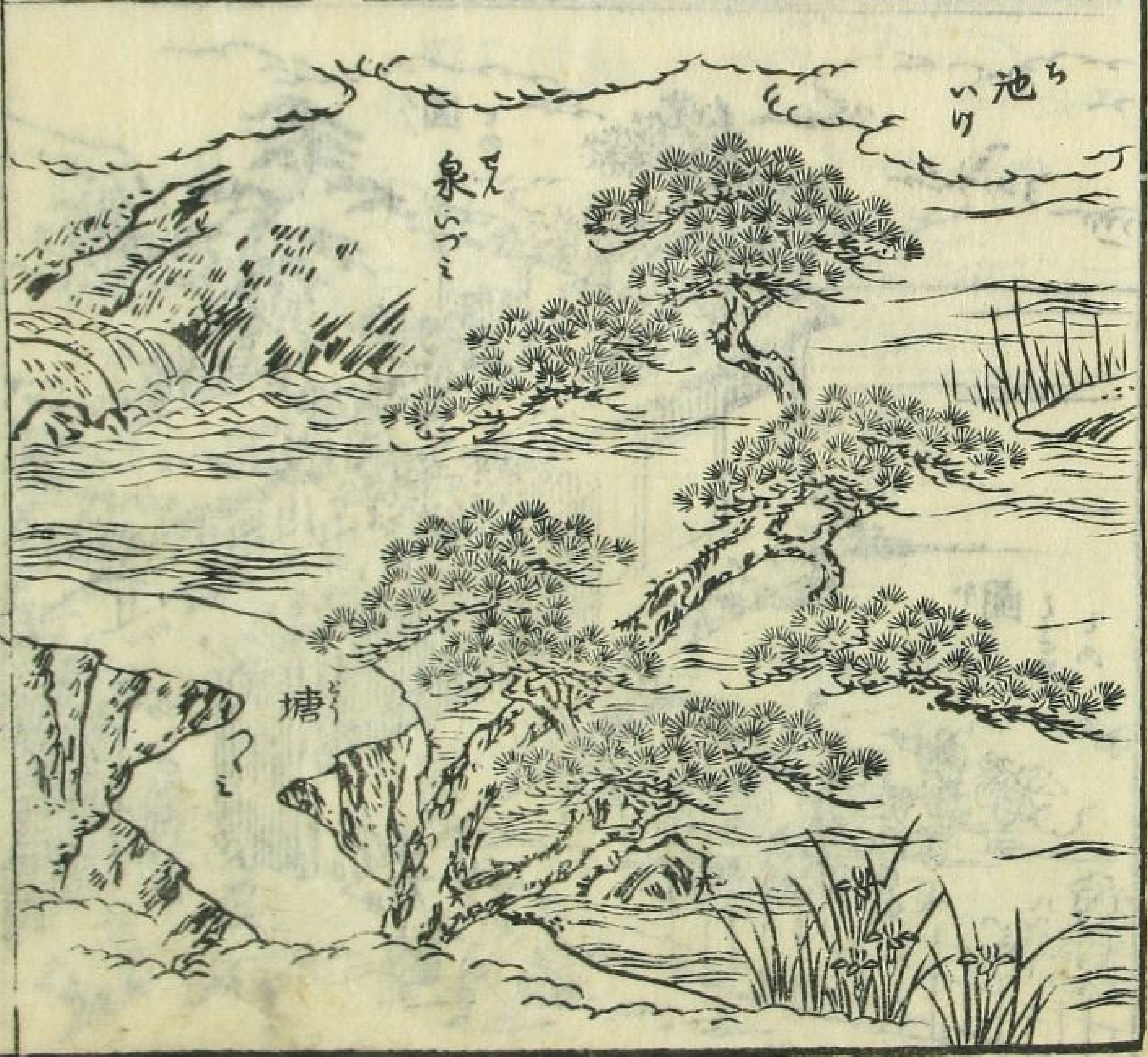
○井は伯益といふ人つくりそ
めるなり 鴆は毒鳥なり羽井
の内におちて人をの水をのむ
死をそ〳〵く井のりくふ桐を
うる鴆は鳳凰と懼鳳凰は梧
桐にとまりのみをば鳳のぬ
んそ〳〵ず鴆を懼をんなる也

○幹は井垣なりとある俗に
いけさるづといふ井筒と書
いふ〳〵韓のうつに竹ず
うもべ〳〵鳳凰は竹の實とて



ふりの名をハ鴫とよくしかく
なり
○澤ハ水のあつまり聚ところ
なり澤にハ杜若河骨蒪さ
いろいろ蛍とびかう其の夕暮
の景色もおもしろし
○石ハ山の骨なり塊久しく
石となる石変じて金銀銅鉄
と生ず星おちて石となる木
石に怪あり石より火を生ず
○礫ハ小石なりさざれいしとも
いふぞてとこうむなりその石
礫になりつく璃龍の蟠るを
ろかぶるごとしといへり
○沙ハ細散の石なり別に沙とく
いふやすりなるを説文に水少に
さあらハ水あらハれ沙あらはる

の義なり繊沙ハはなはだこまかなり
はさごいさごまさご同訓なり
○池ハ地とうがつて水を溜る
をいふ沼も同じ四角なる
池を方池といふ
○泉ハ源水なり下より漏
出るハ温泉といふ垂いづるを
沃泉といふ穴より出るを氿
泉といふ病を治するハ温泉
といふそのゆかり地下ハ黄泉
といふ
○塘ハ池塘なり池のつゝみ
うつしあり俗よろいけと
いふ柳をうゑたるハ柳塘
といふ柳塘莫々暗啼鴉と
詩にもつくれり
○園ハ果をうゑる所なり又鳥



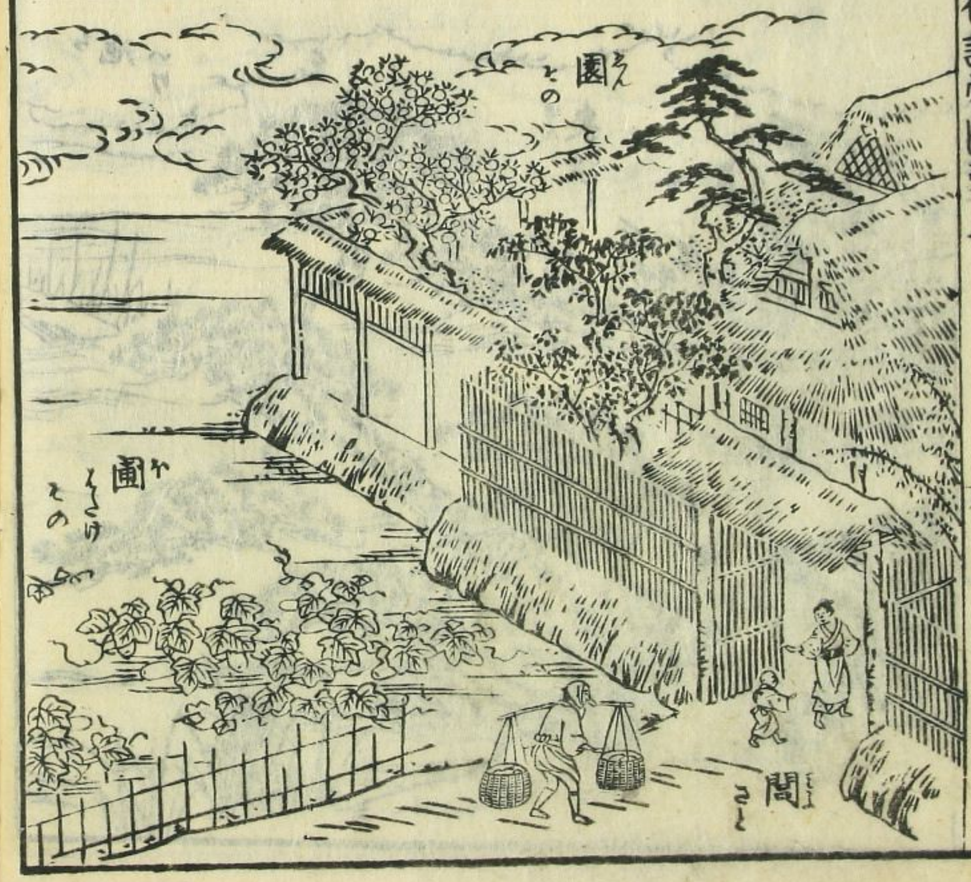
けどりの仮やしきを苑園といひ垣ある仮園をいづきもものと訓を園園俗にてせどゆくして

○圃は菜をうゑる所仮にて也又果瓜をうゆゑを圃といふを也

もつて人をくるけり我不如老圃と孔子もの玉へり論語ふ見へたり

○閭は里門なり今て在所の惣門なる又家二十五軒などゐる在所を閭といふ閭巷といふ

○郊外を野といふ野はひろくして平なる仮て高くして平なるを原とも云あれはせく野原といふ



陸同じ墅と書はわるし

○道は道路なり途同じ徑はみちなり

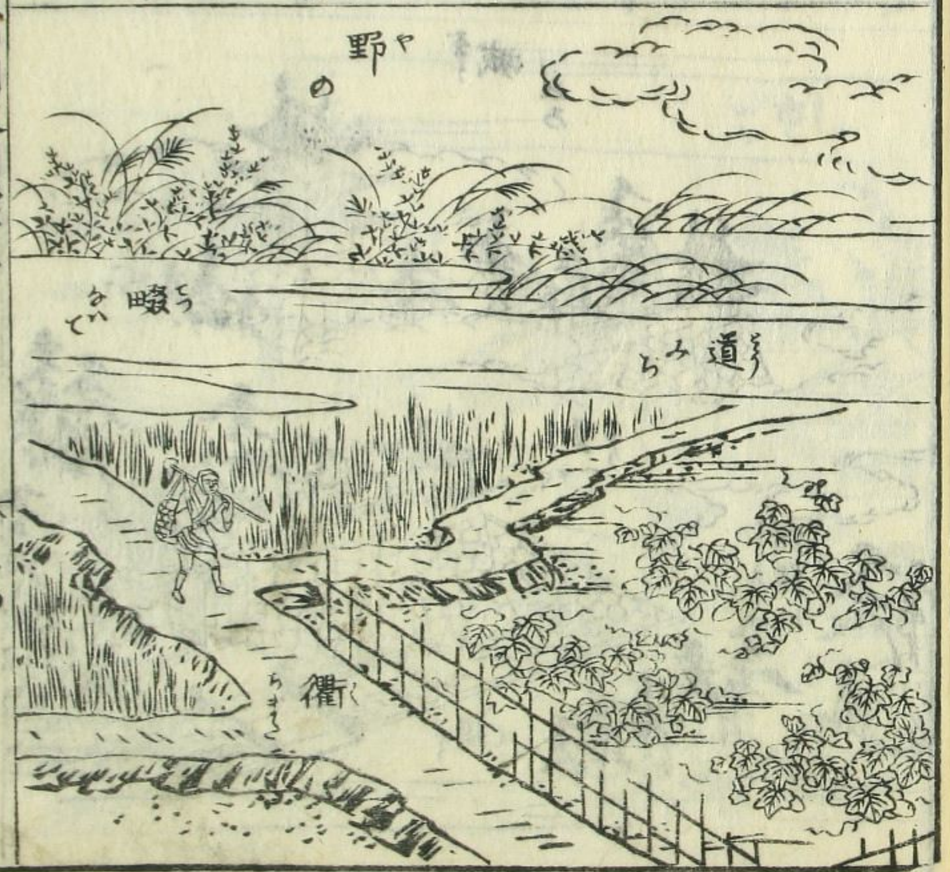
用明天皇のとき五畿七道ふるし文武天皇のとき六十六箇國とあり

○畷は田の間のみちなりあぜ俗ふ縄手と書縄を引たるごとく直けきはなり

○衢は四達の道なり辻ゝ十字街といふちまたなり俗に辻の字仮書てつじと讀

街衢洞達とあり

○城は黄帝はじめて也城郭とも云縣とも云つゝけてめぐらす人間と城と内外を郭と云天守狹間



多門　武者屯　櫓　犬走

虎魚

○塹い城とめぐる水多りて坑塹なると坑壕なりと同

城郭のなりなり

○封疆い土以封して疆とかきるいふ俗ことなるなどそと

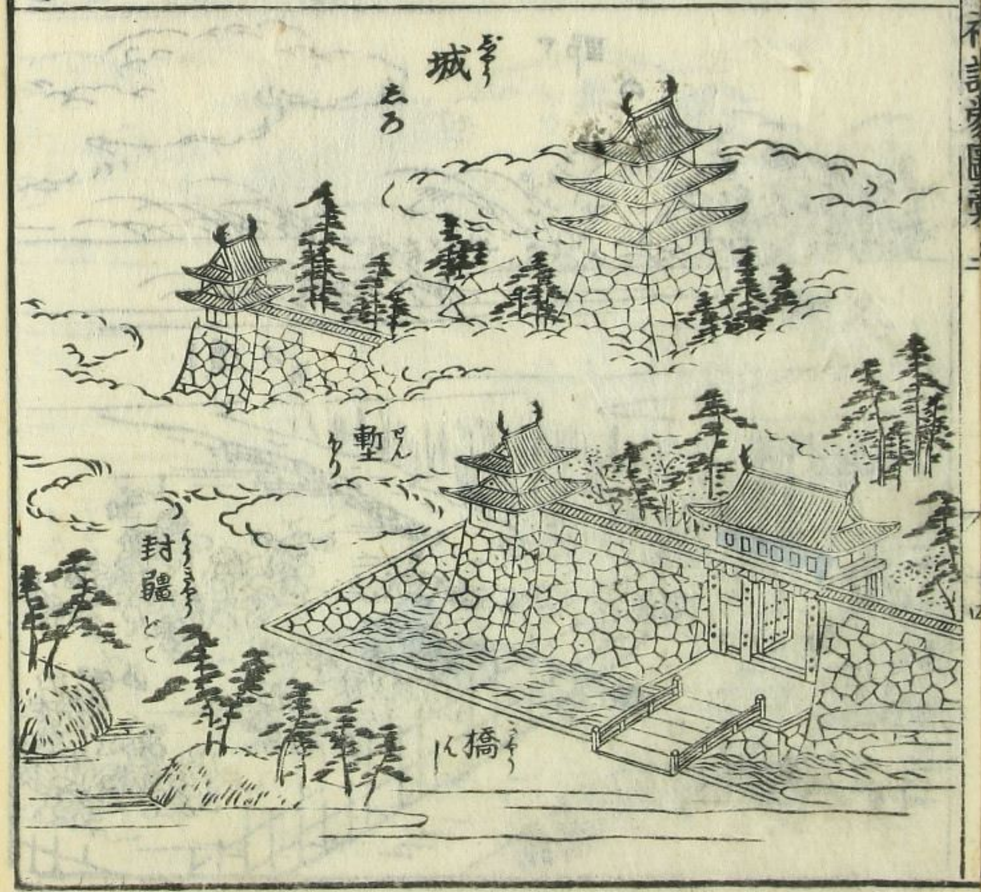
いふ洛陽ことし大閤秀吉公のくらゐ東西南北ゑ封疆ちさて行こうへのふ今にあり

○橋いもろあし禹王といふ聖人つくりそめしなり梁とも書なり石いしくりなり板橋いたはし

石橋いしはし　土橋つちはし

歩橋かちはし

○市い神農をいはめるなり



又祝融をいはめるなり

賣買の所を市といふ補今俗ふるに店といふ魚のうる

呉服うるなどいふなり

○津い水の會するなり舟つきとまるなり難波津

大津　今津　甲斐津など

いとさびなり伯いなり也

○浮橋いかだ一ゑ浮梁とも書べしゑるなり舟をつなぎならべて上をかけ

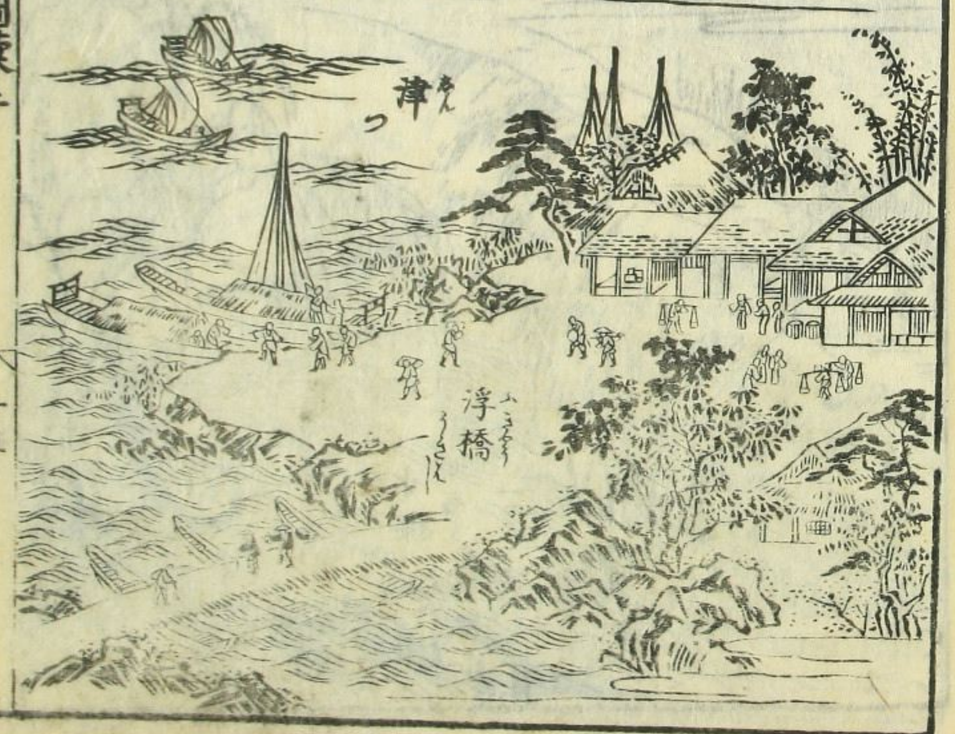
水ふくして橋なきなり

○堤いふさぐもなり

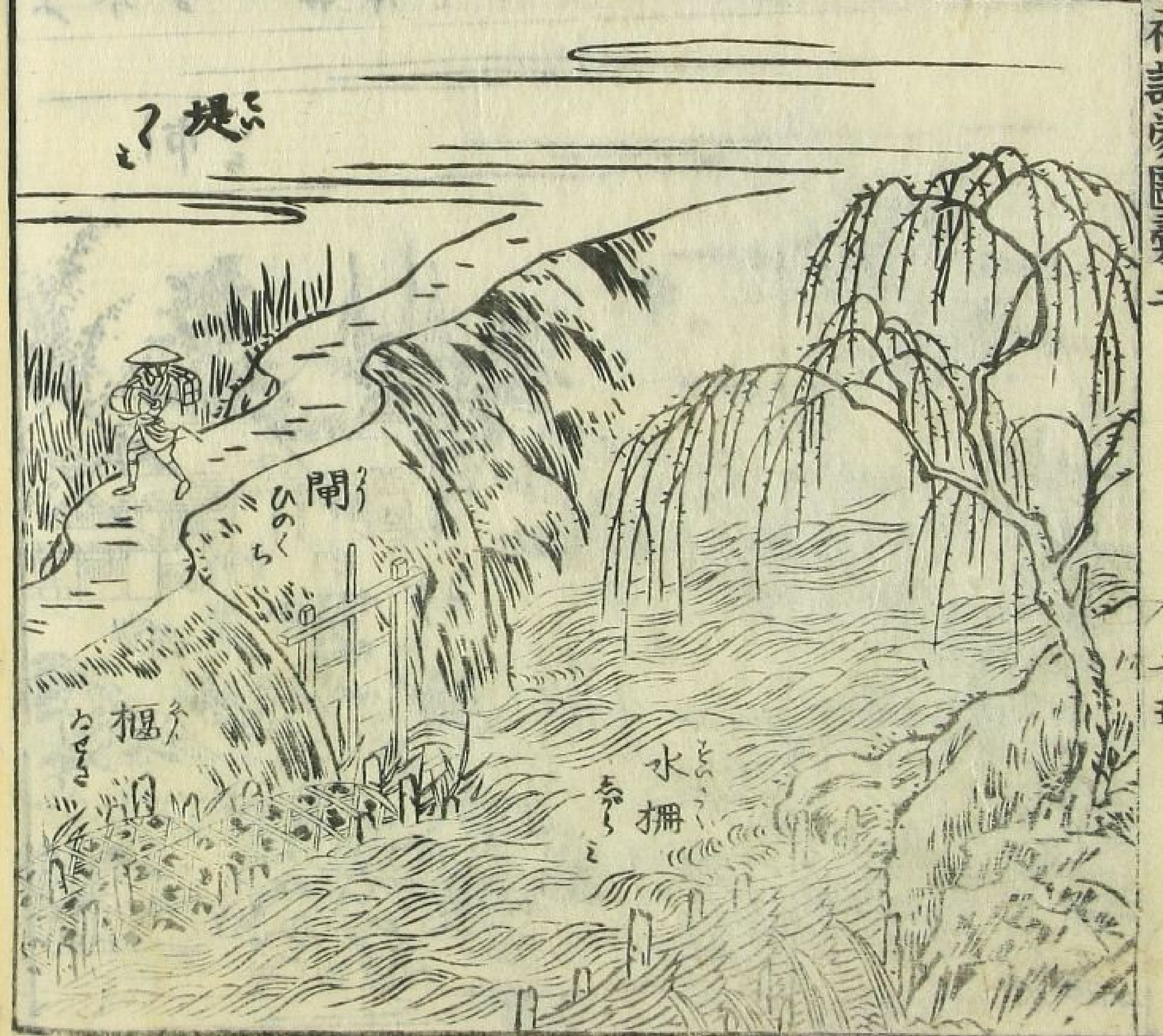
むしとうつく水なるなど

どうかしたるなりて堤を

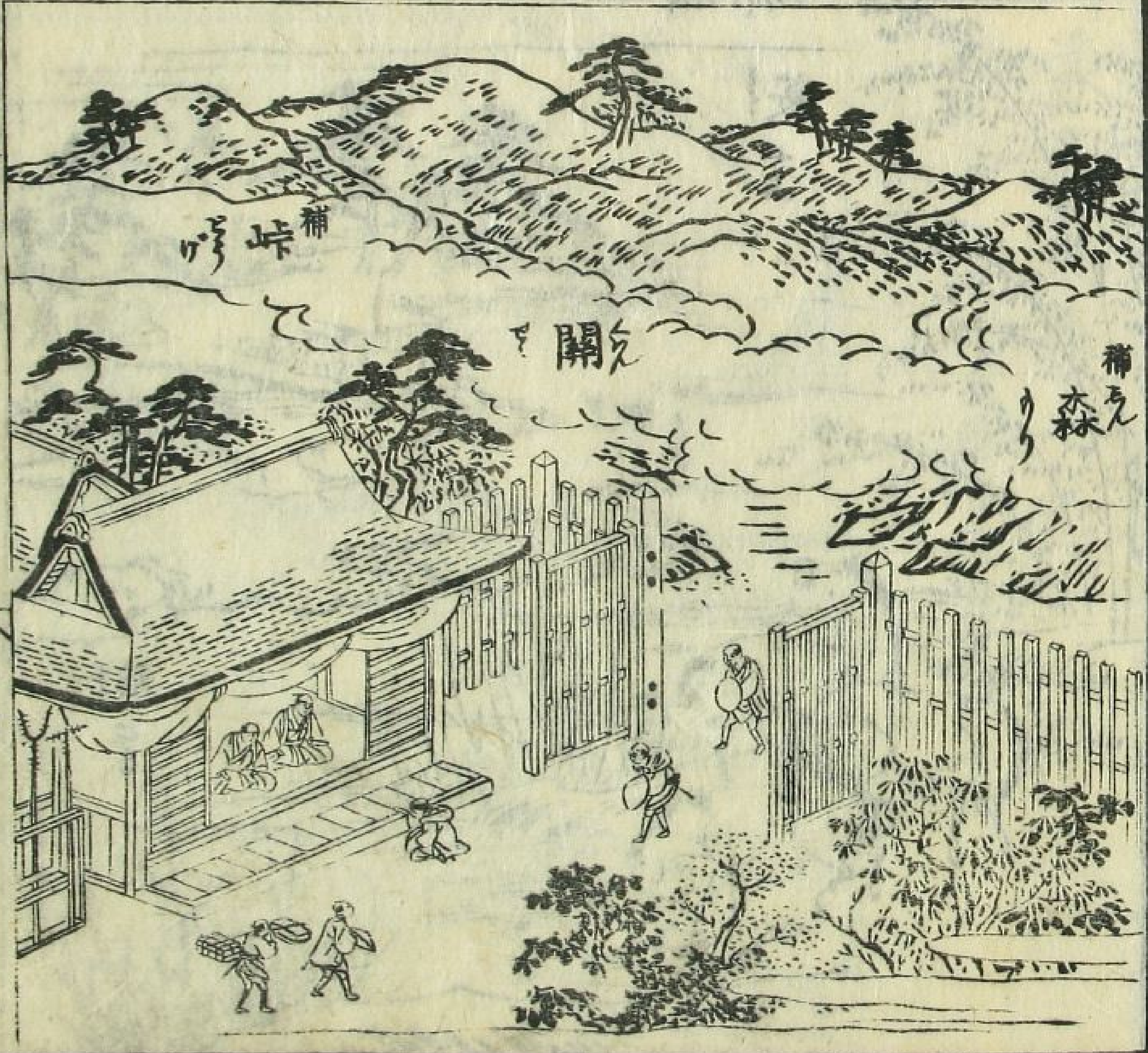
いふ隄とかくいわ塘堤同



柳堤ハ[補]堤に柳を植たるを云
○閘ハ水門なり俗にいふ所ハ樋乃口といふ田に水を入るゝ
ハ引おけ入ぐるゝハあるを
○堰ハ蛇籠に石をいれて水を
ふさくものなり又埭とも書也
水邊に田地又ハ屋敷あるに堰
をとるあり[補]俵に土砂を入て水
ふせぐこともあるなり
○水柵ハ竹木をあんでつくりて
多く水よけなるをいふこれも
山川に風のうけするをいふ
なりれもあるのちあり
ともあるなりさいふ也
水柵なり
○關ハゆきゝのとをりかうし
きんとどめるを所なり



風破の関 鈴鹿関 逢坂関
これを天下の三関といふ今ハ
なくなれり 箱根の関といふ
あり其外関所あり
[補]峠ハ山坂ののぼりおりする
ところをいふなりまた山中
の峠 鈴鹿の峠などいふ山道の
往来にハ峠といふところ多
なり
[補]森ハ木の多く生しげりたる
所をいふ狐の森 螢の森
又鷺の森などいふもあり
○牧ハ六畜をやしなふ所なり
いにしへ郊外を牧といふ言ハ六
畜をはなち牧をすべき所なり
國の守護を牧といふも民
をやしなふの義によるなり



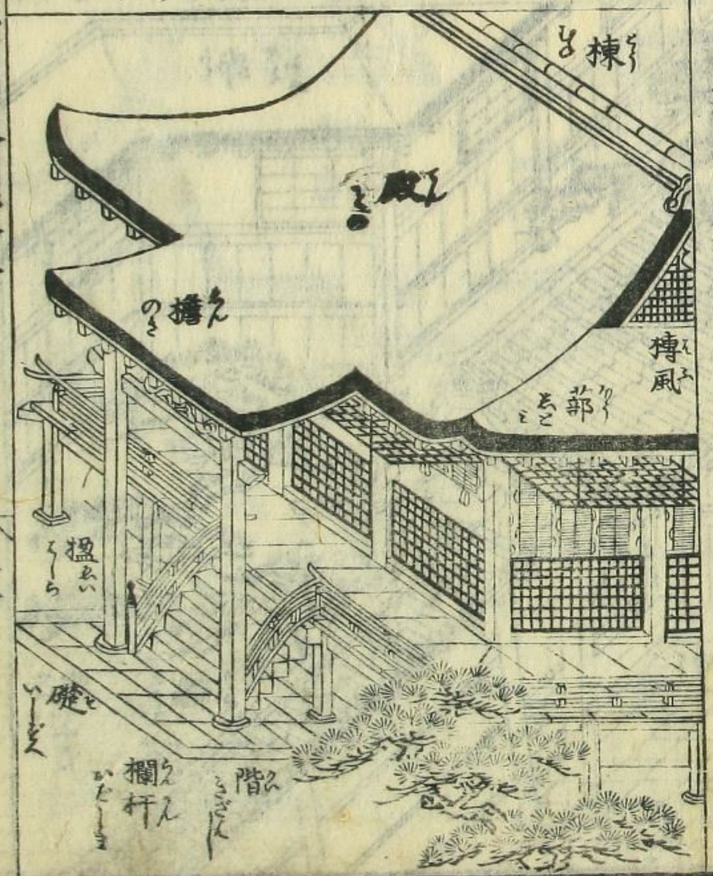
○墓ハ墓の字に意みそ
なりてくに事あり子孫の
先祖と思墓をるり塚も
同しく天子のゝ陵とゝ
塋同しく壙つゝあるなり
○沼ハ池の大なるものゝ
又水あく泥土あるものゝ池
澤沼ハ同しくをゞひなるとゝ
城國伏見に大沼あり葦芦
なと多くゝ水鳥の住所也
○藪ハ竹林あり苦竹淡竹の
二種と用ひて其性ゝくゝ
藪とゝして造作又器財に用
ゆる事をゝ

頭書增補訓蒙圖彙卷之三

居處

此部小ハ宮殿門戸壁檣庭窓乃きゞひ
とゝて家居宅所ふつゝその文字のゝ

○殿ハ堂の高くして大なる
ものゝ上ゝ天子の居ゝ所ゝ殿
ゝ殿乃天井に藻とゝ云くる
藻ハ水草なるもハ天天とゝ
る乃ゝ云ゝ
○棟ハ屋極なると屋脊とゝ
ゝいゝらゝ鴟尾いゝゝゝ
蚩吻ふゝ
○檐ハ簷宇同しく造檐焉
滴如琴筑と詩ふもにくゝり
又檐のあゝめ檐の水ゝ
秋ふゝるなり



○楹は殿門のあなたにのぼりて丈楹ともいへり柱同じ短なるつゝぐらなり

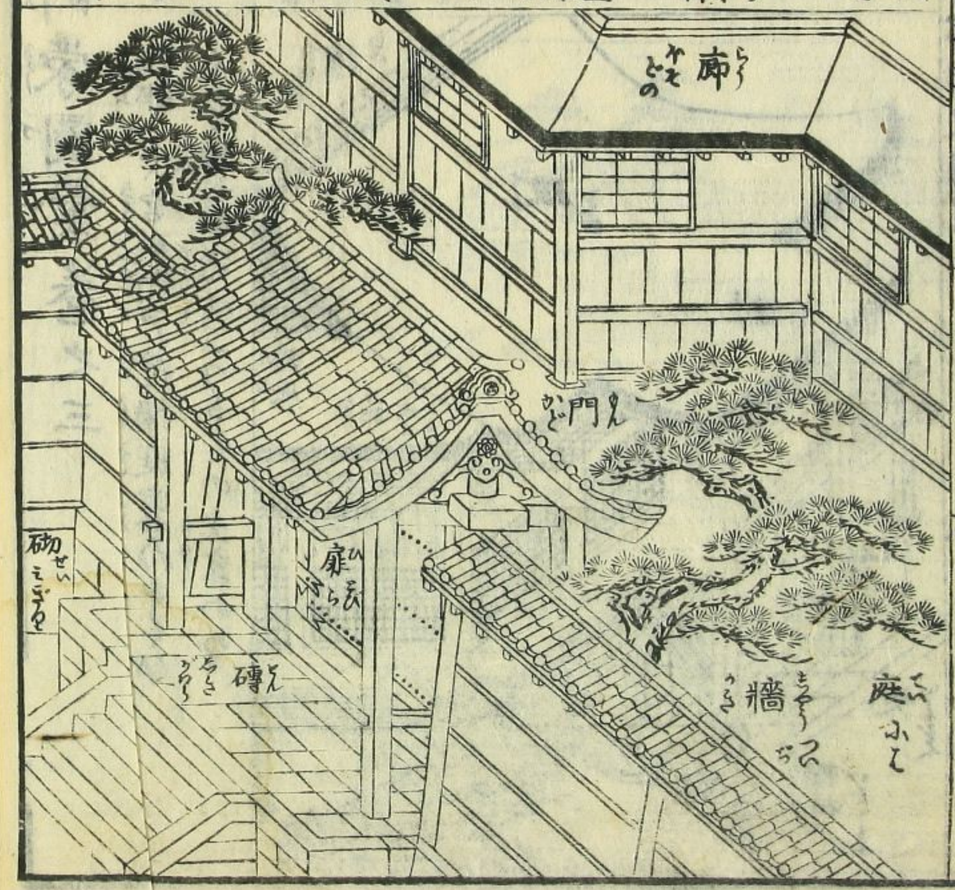
○欄杆は階除の木句欄なり欄干とも書なり干又檻と作るなり

○階は砌なり堂に昇る道也階級階除階榛ともいへり俗にこしかけともいへり

○博風は風板博とも出梁とさるるの名なり

○懸魚は魚は水に属るの名なり

○鄙は屋の檐ふりあげて反ありしのなり俗ふりあげといふなり



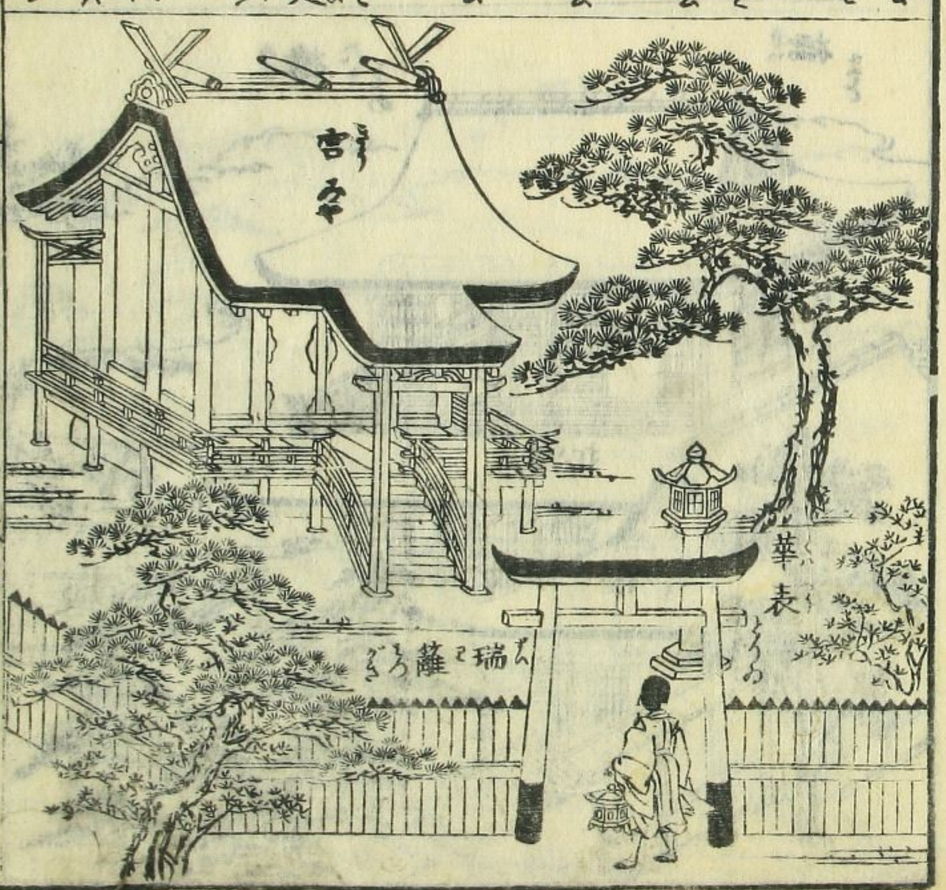
○礎は柱の下に石なり詩に礎潤而雨之と礎と云礎礎并に同じ

○庭は門屏の内と庭と云又砌といふも庭なり

○門は両戸あるを門と云

○廊は殿下の外屋なり

○墻は墻垣墉並に同又門屏と蕭墻とも蕭々言へり君臣おひまゝ



乃紀い門扉にてうて肅敬とくてうあり

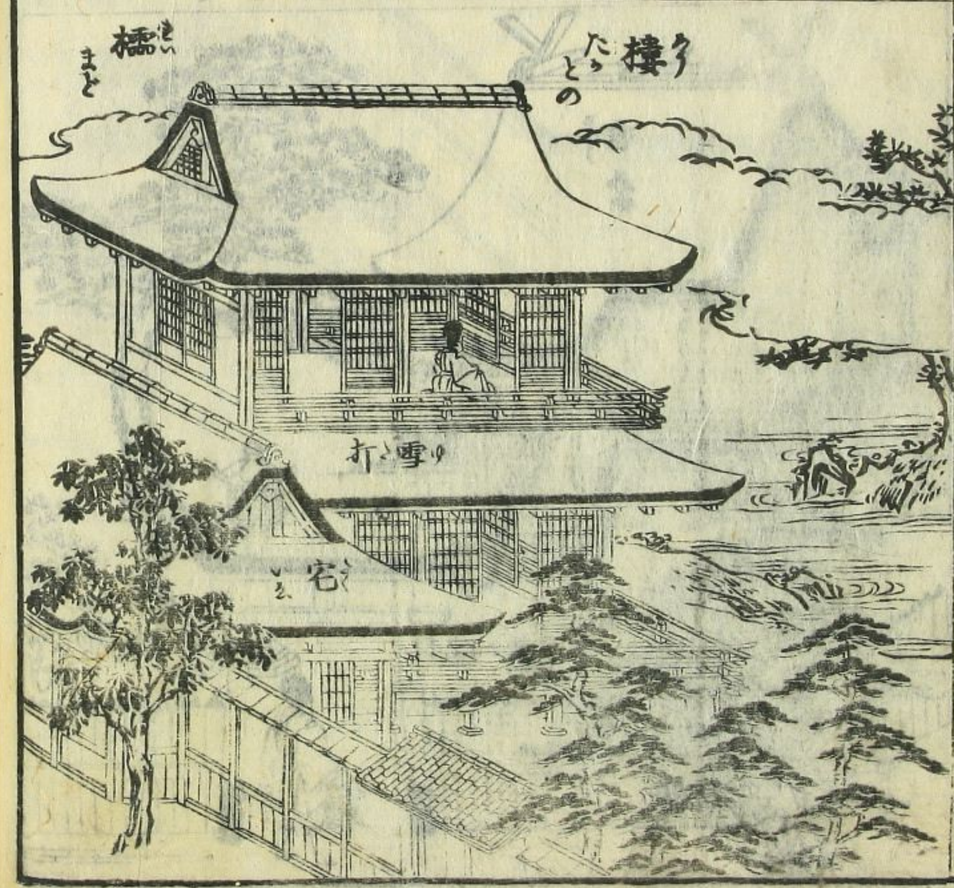
○扉い木ふて作りて扉らふ竹ふて作りて扉と扉といへり扉戶扉柴扉竹扉なといふ

○磚いたかたくあり又甎甎もいふ又壁磚ともいふ塼甎並同禪堂なとふ有

○砌い階鬼かいしたくこ俗にていしのうえ通して庭之事なり

○宮い唐ゆくい至尊の居所と宮といふ和朝ゆくい神の居るを所を宮といふ社とも祠ともいふなり

○華表い神前にうる鳥井なりとうるといふ事い神



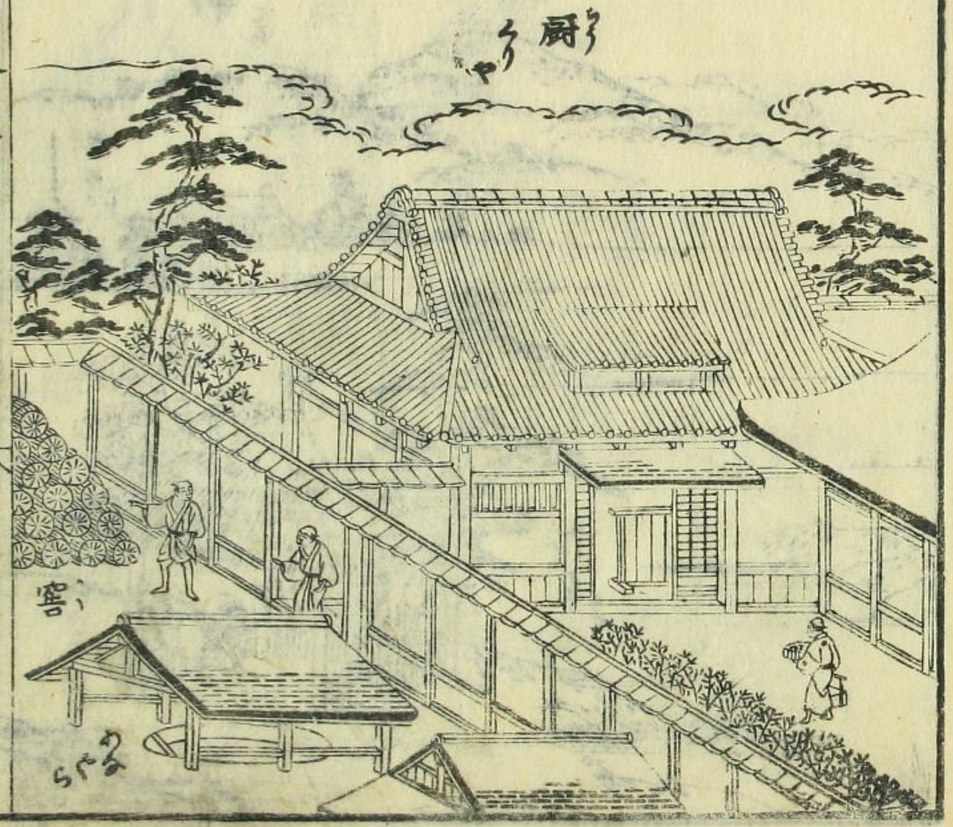
門なりとうるいふ天のまれとうるなりとうるもいふ鳥井と名づる事史実とうるのこうろ乃名なり

○瑞籬い神前社前のうえ玉垣ともいふ不浄の人ちとうる門へ入なりとも

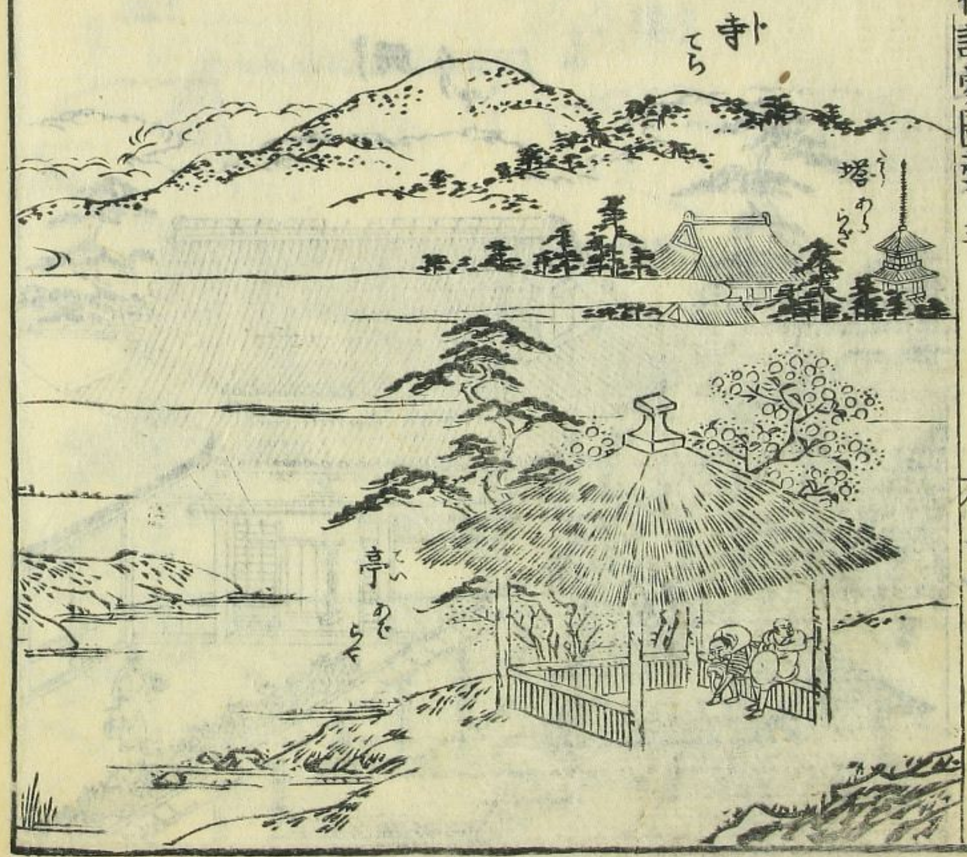
○樓い重屋なり高くつくりて物見とうるなり入り俗にちんといふ

○櫺い隔子なり櫺子なり俗にひしこういふ木のまど俗櫺子といふ土のまど俗土窓といふ

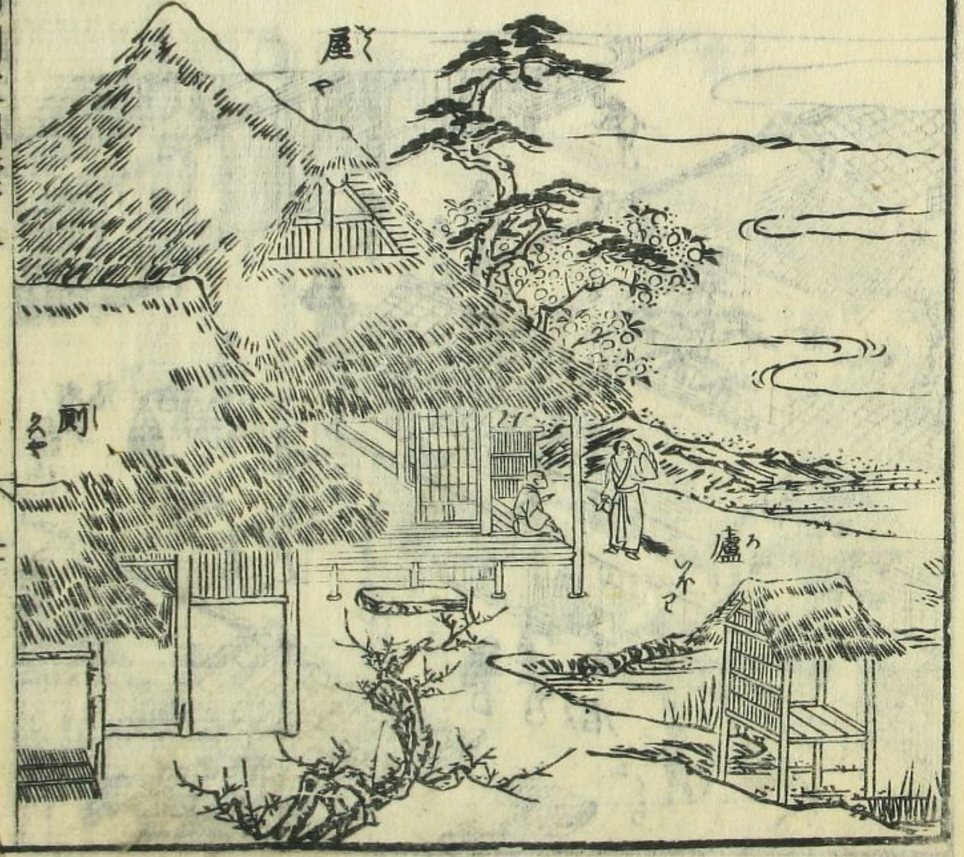
○雪打い佛殿樓閣なとい二階なとにあるなり雨雪なとの打つるなりるものなり俗にあまといふなり



○宅は擇ばるゝ所なり擇
でいとゝ云ふ人なり又
人の詫をる所とゝ家もも
舍家屋とゝふ同又は第宅
○厨は烹飪をする所なり今云
料理所なり又庖厨とゝ略
ゝ俗名也
墓所とゝ云ふ
○窖は地藏なり凡そ寶ゝ云
方なる穴窖とゝ云ふなり
穴なる地とゝ云ふ穴とに
ら人家財を入る所なり
○寺はもと官人の居る所の
名なり天竺より佛經と白
馬ふみをせく渡臚寺とゝ
官人の居所なりしゝ佛氏
の居所の名ゝ



○塔はいろゝの長安ふ慈
恩寺とゝ寺なり塔なり鵬
塔とゝ進士名をその下に
題を塔婆 淨圖同ト
○亭は道路の舍所なり
旅宿會の館ところなり
俗ゝ俗ゝ
高く立る樓
も亭とゝ
○廬は舍なり大屋を廣屋と
ゝ家の真中と
屋とゝ四方面の家と四阿
屋とゝ俗ふ屋とゝ
○廬は田の中ゝ屋なり稻を
入る所なり草ふくや
とゝ屋とゝ菴同
ゝの廬のとゝ廬の



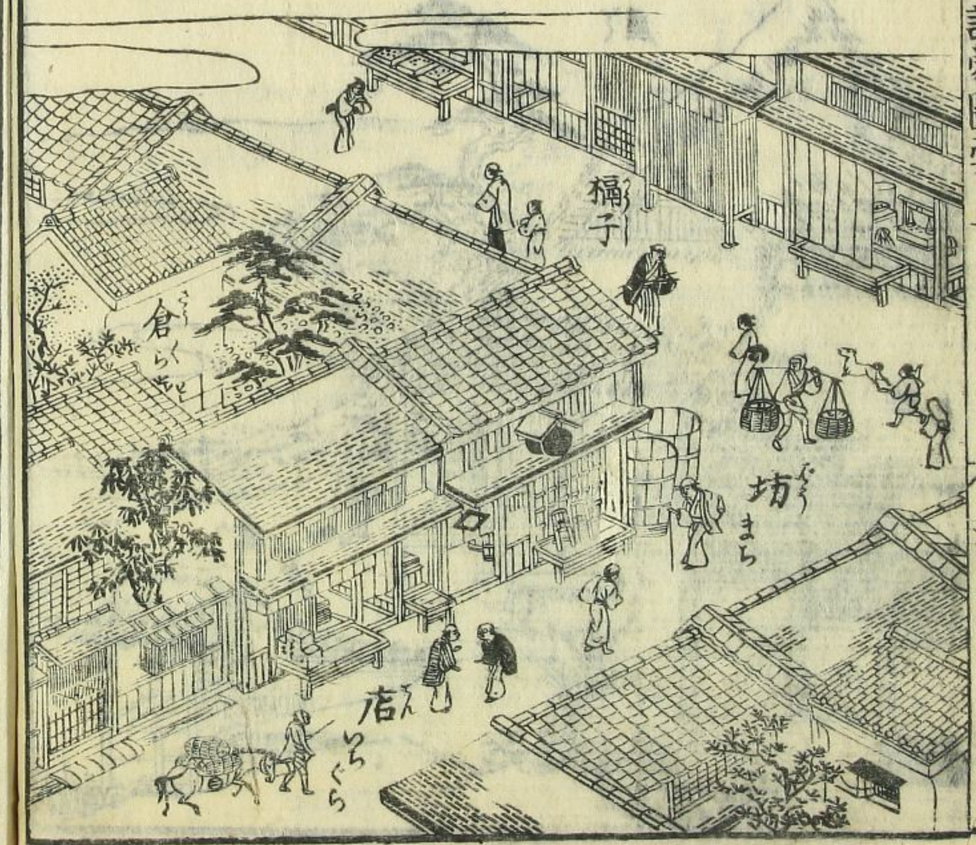
と書をり

○厠ハ圊なり溷なり俗ニ
と雪隠とハ古い清とハ不
潔と清除とハ下くの名り
釋名ふ雜なるを人をのうに
雜厠をるり

○坊ハ邑里ノ名ちまり
町なり京二条通と銅駝坊と
いうかこ〳〵ハ別屋と坊と
いうハ僧坊寺坊なり

○店ハ物をひろく、あるなり
かるを茶店酒店などいふなる
店屋物なども〳〵肆廛
鋪同一心なり

○桶子ハ格子とも書なり組
入桶子狐桶子釣桶子臺桶
子なるわり禁裏ハ寺社を



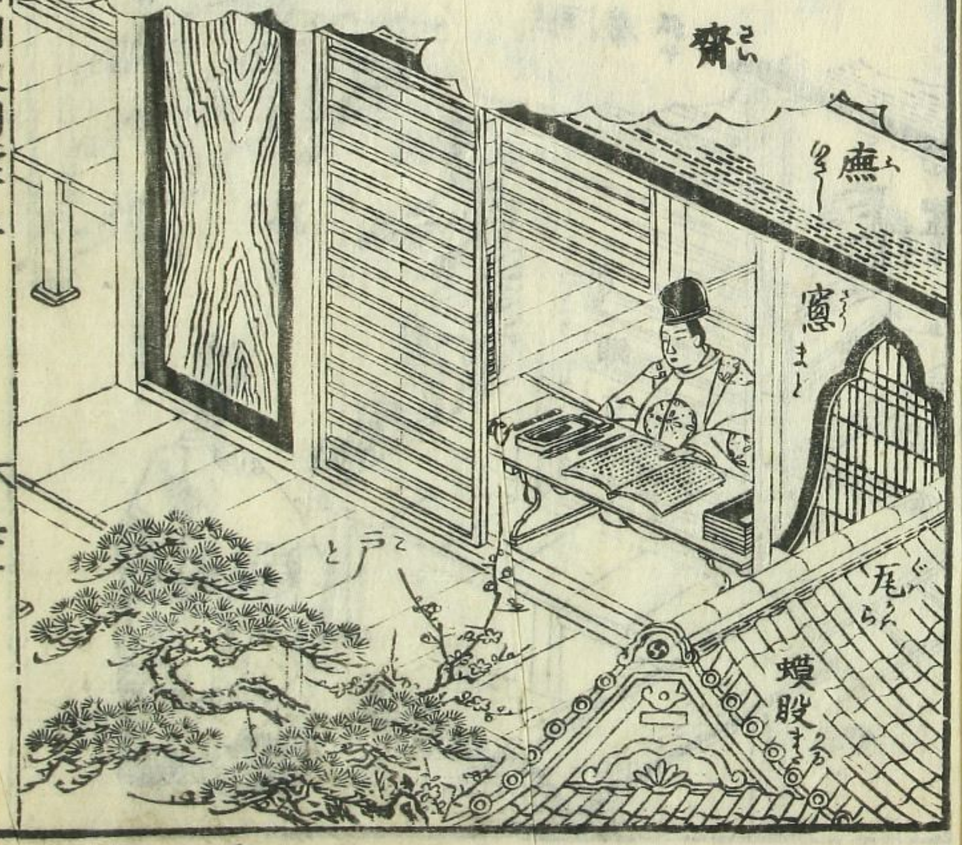
にあるい狐桶なるを

○倉ハ五穀を入るハ倉とハ
米を入るを廩とハ財宝を
いるを藏とハ書物を入を
庫とハ上庫ハ下庫なるを
府もなり

○齋ハ潔なり心を洗を齋
いハ学文所とハ燕居の室
なを学文ををハ齋号ハ
付ハ我学文所の号とハ
なり

○廡ハ堂下の周廊なり大屋
の四邊ノ重檐なり

○窻ハ釋名に窻ハ聽なを
内より外をうかゝひてうつく
聽とかをの義なり總牖並
に同一紙窻 紗窻



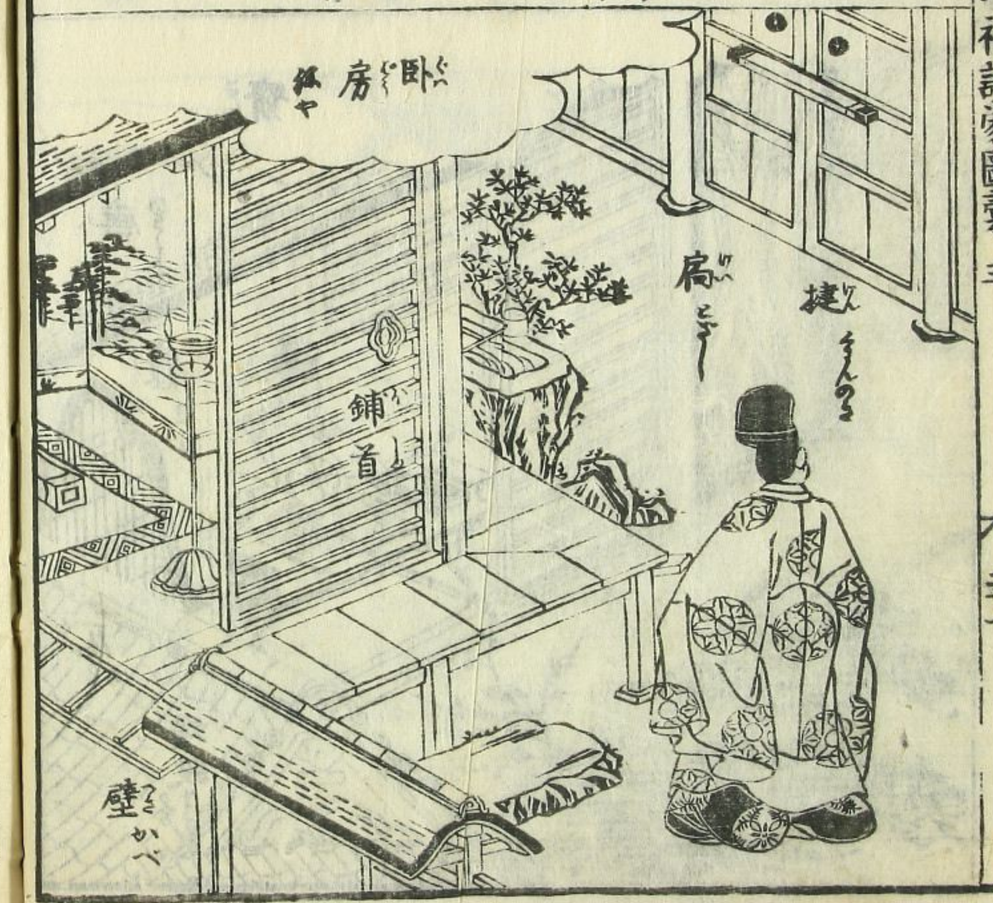
○戸ハ一枚ゝの門と戸とをあハせて戸と云ひ外と門とをあハせて戸と云ひ民家多くハ編戸とす

○尾ハ唐夏の昆吾とをあハせ竈とをあハせ魏の文帝尾とをあハせ鴛鴦と云ふ故事あり

鴛鴦尾とをあハせ

○蟆股ハ摶風の下にあり蟆の股ハ細く長くして蟆ハ水中に住りの色黄赤なるを鴨居とをあハせ同意や

○臥房ハ寢室ともをあハせ閨房ともをあハせ御寢所と夜殿とをあハせ



○捷ハ限門木なり今ハくハんの木なり扉門並ふ同

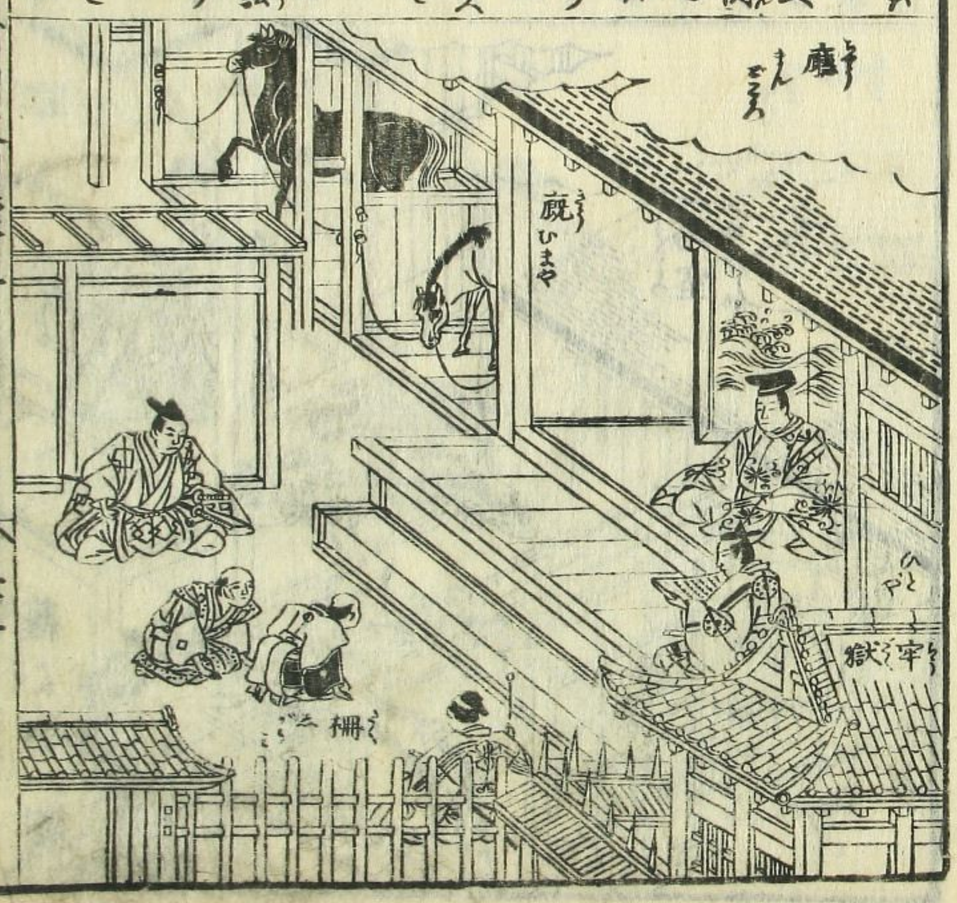
○扉ハ外より閉る関なり又門扉のうへの鐶鈕なり又関戸の木なりうへの木ハ鎖

○鋪首ハ今按ずるに門ハ複障なるべしのうへ鐶なり鈕ハつれなり

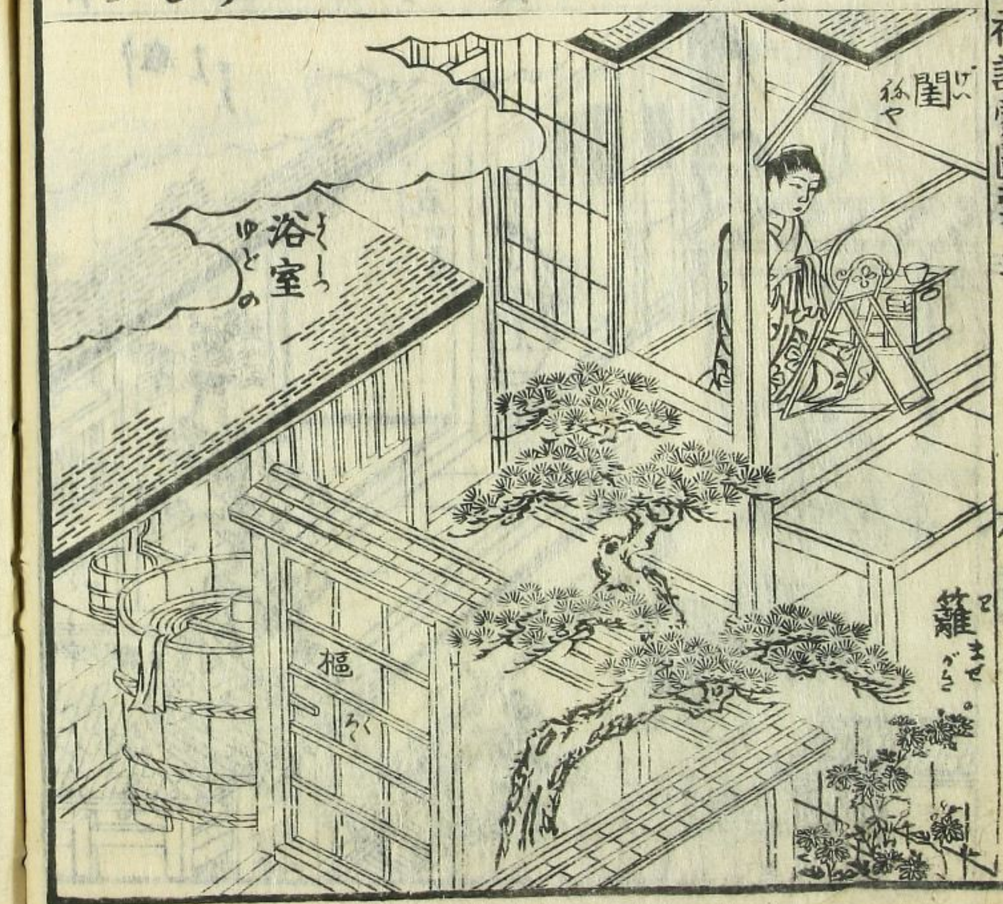
○壁ハ城のくべと壘とをあハせ粉壁とをあハせ畫壁板壁なとめて室の屏蔽なり

○廳ハ政ときくあり撿非違使のなるあり公事訴訟とをあハせ廳ハつれなり

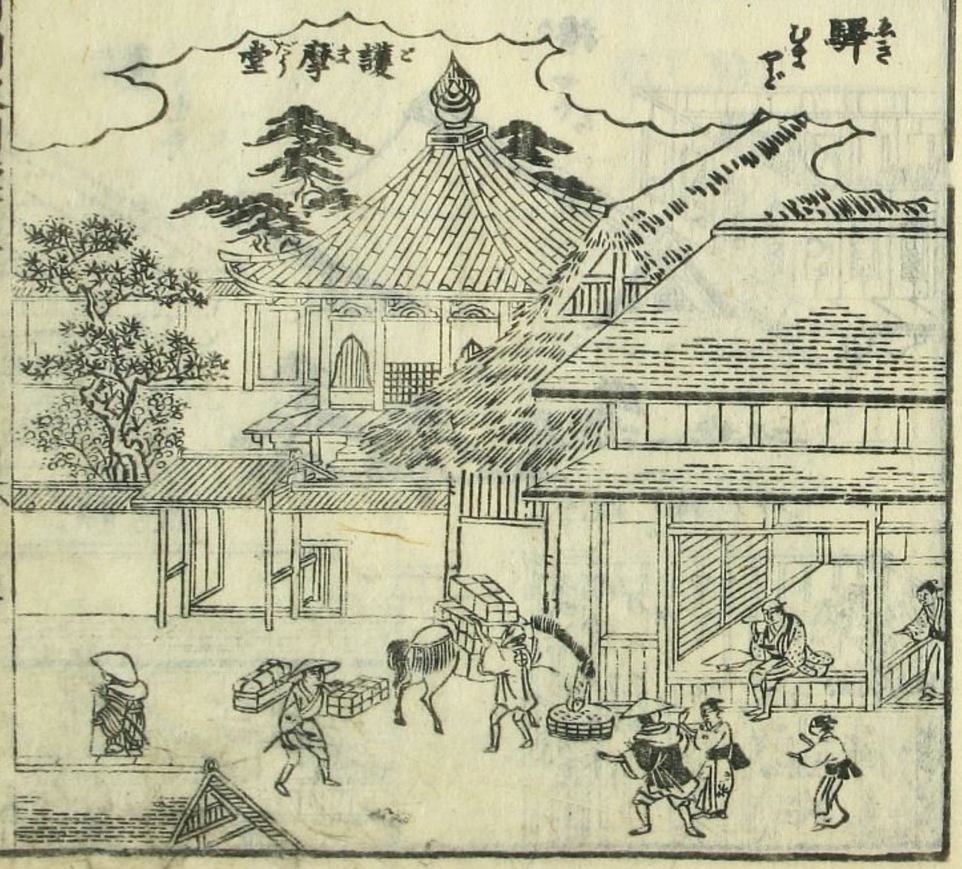
○廐ハ馬舍なり猿の異名と馬父とをあハせ廐ハ猿



とろく祈禱ととのえ
厩のうへ馬をつゐく木と猿
木をつゐく
○牢獄い罪人と囚をとゐ
皐陶といへつゐとゐ
ゐり周の代ふい囚囚といへ今
籠と書いあやまりゐり
○柵い木をあつて是をとゐる軍
陣にくへ人馬をとゐぜりのゐり
箭同し俗ユ駒ともも馬ユ
ぜんぐもつへ
○閨い婦人の称やなる東坡
門の夜故卿の妻をとゐ人乃
詩ふも閨中唯獨看と作り
○浴室い沐浴して身をきよむ
ゐゐり俗ふ湯殿といへ禪
寺にい風呂屋ど浴室と額を



○籬いませともへ作ゆくめ
うゐうゐとゐり藩笆とふ同
陶淵明が詩ユ採菊東
籬下に悠然對南山
○樞いろくゐり言行い君子
の樞機かりといへ北極を
天の樞ゐりもゐる門樞戸
樞扉樞などへ
○驛い道中のとゐる馬つ
きへいへ驛館ともユ驛舎
とも驛傳ともへ
○護摩堂い護摩い梵語
なるを焚燒と翻譯をとゐ
まび護摩くくといへ重言
ゐり護摩と修をる護摩
をるかくいへべくを
○臺い四方にしてたゐりのを



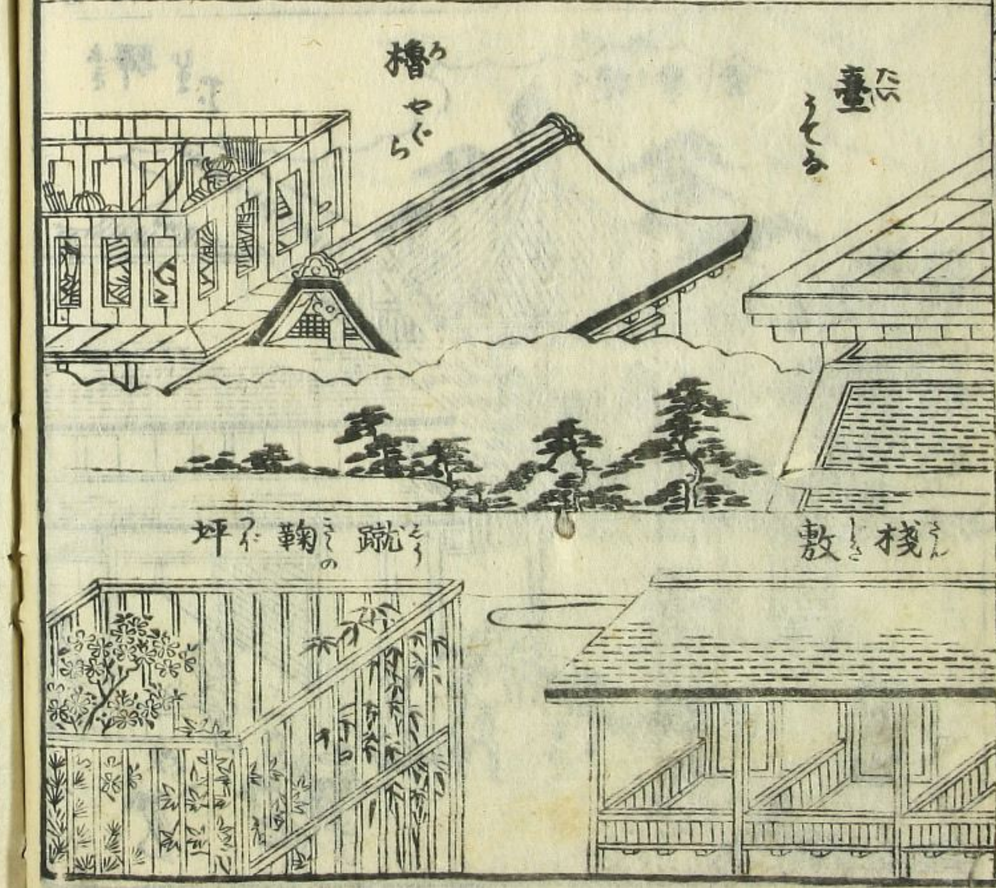
臺とゝ臺上に屋を架するを臺門とゝ又樓臺舞臺歌臺とゝ

○櫓へやぐらゝ城上の望樓なり狹間ゆゝ敵の多少をうかゝひのぞく弓鉄炮とゝ矢を放つ又戰棚ともゝ

○棧敷ゝ見物の棚なり棧敷ゝうゝ又ゝをろかゝゝ

○蹴鞠坪とゝゝ鞠蹴場也四本のゝとゝ四隅ゝ松竹櫻楓とゝ也なり鞠ゝとこゝ蹴ゝ坪ゝ

てゝ事なり



○輪藏ゝ一切經を入置藏也轉ゝうゝくるゝふゝりゝく輪藏とも轉藏とも經藏ともゝ一度轉藏をまわせば一切經を轉讀ゝる道理なり

○護持ゝ今ゝ擬宝珠なり橋ゝ高欄ゝあり

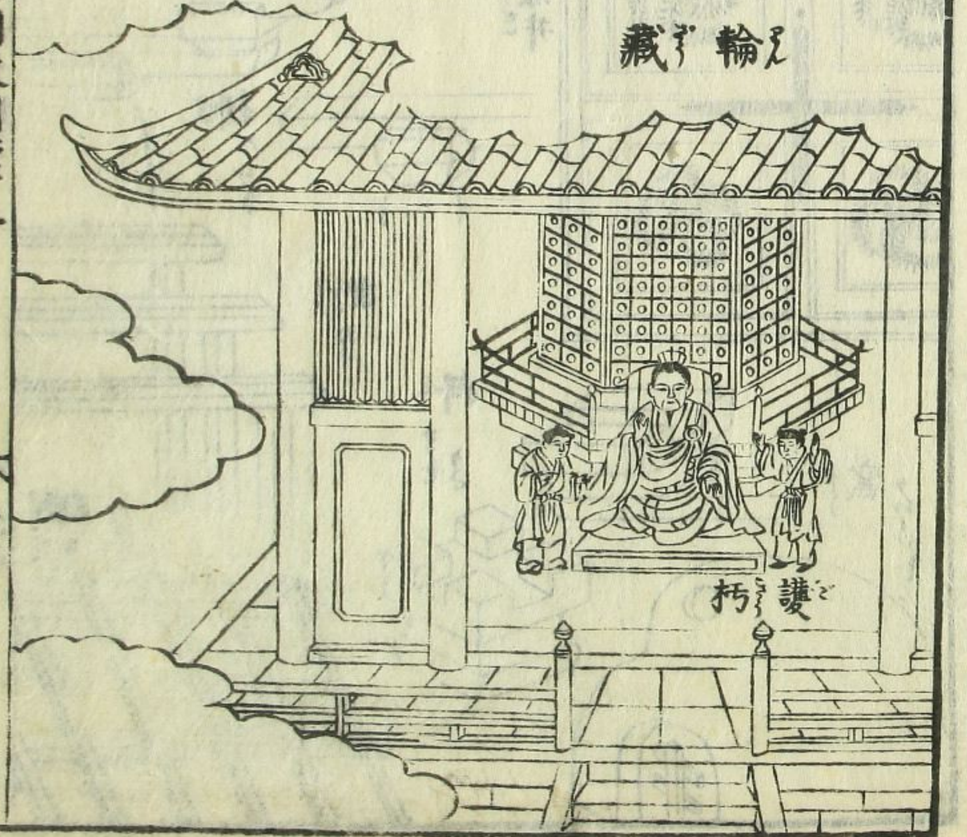
○枅ゝ臂木と俗ゝ書雲とゝ

とゝり付ゝ雲臂木ゝ曲枅ゝ拱ゝ欒ゝ枅ゝ

とのゝるゝゝ

○枅ゝ柱の上の四角なる拱斗なり方枅拱枅拵枅ともゝ

○折ゝ屋の横木なり足ゝ

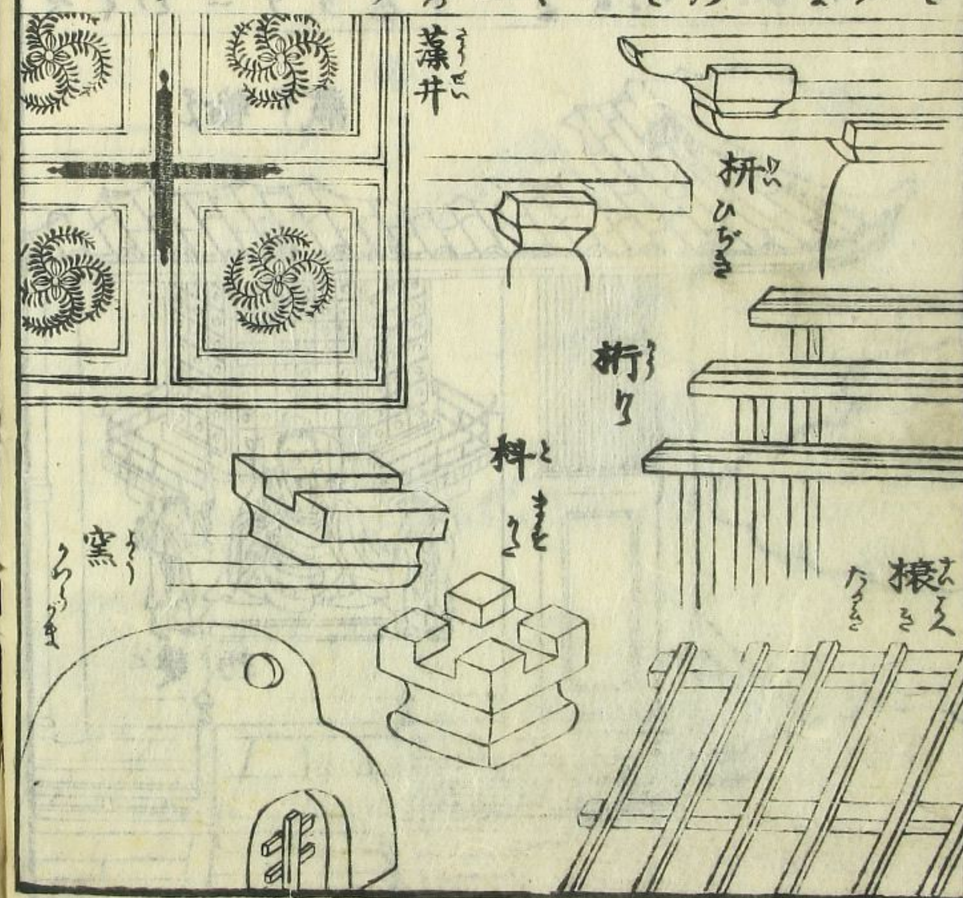


頭ゝ衣折とて素もめゝ
又衣類をかゝる衣折とて
翡翠鳴衣折と杜子美が詩ゝ
にみえたり

○榱は椽なるべしもろ〳〵秦乃
世ふは椽とて周の世には榱と
て齊の世ふはこれを桷とて

○藻井は天井なり藻とゝく
にもろ〳〵藻井とて藻とひ
井しのゝかゝ史英とさゝろゝろ
なり天井と書も此意なり
みゝ水の縁とる

○窯は瓦竈なりかゝやゝくゝ
かゝと富同おのゝゐはゝにゝ
らゝ入柴はゝくゝふゝとゝくなり
炭やゝゐも此きゝひなり



早稲田大学図書館
011688990906